

屋島のため池

屋島のため池調査をおえて

天 野 忠

香川県農林水産部土地改良課「讃岐のため池誌」編纂室の委嘱と、屋島仲池土地改良区谷口辰男理事長の要請と協力によって、平成8年8月初旬から屋島のため池の調査を開始し、11月下旬に一応調査を完了したので、これを集約することとする。

調査の要領

香川県から受領したため池台帳により、池番に沿ってその管理者宅を訪問し、また、管理者が屋島に在住していない向きは地区の長老より、香川県の調査要領による聞き取り調査と、全池を踏査することにした。

1 築造の由来

これは、屋島東町、屋島中町、屋島西町（これより東町、中町、西町とする）をとわず、古文書は無く、確たる言い伝えも無かった。屋島山上の瑠璃宝池（血ノ池）については、木太郡誌に、屋島寺に古文書があるらしく記載されていたし、何かあるものと期待していたが、屋島寺住職中井龍照師に面会して尋ねたところ、「そのような古文書は無い」とのことであったので、少々期待はずれであった。

皆一様に築造の時期は江戸時代だろうとのことであったので、ため池が必要となった理由、中心人物の苦心と努力などは全くわからなかった。

2 改築の経緯

これらのため池の築造は、殆どが江戸時代らしいとのことであるから、殆どのため池は築造後二百年以上経過していることになるので、何時かの年には改築・修理しているものと思われるが、最近に改修されたため池でも記録が無く、覚えていないと言うので、それ以上の調査を断念した。

3 水利慣行と水利紛争

これらについては、水の配分は農家にとって死活問題であり、紛争などはその大小は別としてもあったはずなのに、「あったはずであるが、今は無い」と言う。これは、減反政策で米を作らなくなり、また、後継者不足により、慣行がなくてもどうにか、間にあっているので水不足の危機感がなくなったためだろうか。

4 逸話伝説

中町、西町においては余りないだろうと思っていたが、東町は、かつて源平合戦があったので、これにまつわる伝説があるものと期待していたが全く無く、また、ため池における奇祭も無かった。

5 調査時期の遅れ

聞き取り調査の対象としていた管理者の殆どは既に故人となられ、その後継者は60才・70才であるが祖父や父から聞いたことがないらしく、詳細に知る者はいなかった。

「祖父が生きていたなら」「父が元気であつたら」と各地域で聞いたが、調査時期がせめて10年早ければの感を深くした。

6 屋島におけるため池の現状

屋島は国立公園であり、昔から松が生い茂り風光名媚であることが売り物であることは承知していたが、それでも平素はあまり関心が無く、遠くから眺めて、ただ単に「屋島もだいぶ、松食い虫にやられたの・・・」といったくらいに関心しかなかったが、この調査をするようになってから、山と先祖から継承してきたため池について関心をもつようになってきた。

池番は、屋島東町宮ノ窪から始まっているので、まず宮ノ窪上池から開始した。

私は他人より特別に蛇が嫌いであるから、ゴム長靴を準備して毎日自転車に乗って出かけていった。人通りの少ない東町であるから、なんとなく人目についていたのか、来意を告げると皆快く応対してくれ、私より高齢のお爺さんが、腰を曲げ杖をついて元気にため池を案内してくれたのには恐縮してしまった。石場地区の山にはいると、新道山の手線から上のため池は用水を利用しているとしていないに関係なく、荒れ放題に荒れて水は黒茶色をしている。また、雑木が生えているため池があるし、笹竹が茂って近寄ることもできず、その全貌を見ることができないため池もある。それでも新道山の手線から下は比較的用水を利用しているので、貯水量は堤の高さの5分ノ1から半分もあるため池があり、ため池らしい体裁をしている。

屋島山の南麓あたりの中町では、急峻な場所にあるため池は少なく、比較的中間部や低地にあるので、水がありため池の面目を保っている。

西部の西町では、一部を除いて比較的調査が容易であつた。

この四カ月間のため池調査は、現地を踏査をしたり、地区の長老とため池のことを忘れて話し込んだり、家族のことを話したり、私にとって非常に貴重な体験であつたので、後日、まとめて記録したいと思っている。

調 査・編 集

天野 忠

調 査 協 力

高松市屋島東町土地改良区

木村 昇

監

修

高松市屋島仲池土地改良区

理事長

谷口辰男

第一理事

山田 孝

著作者の転載許可を得ることが出来たので平成13年5月28日より掲載します。
著作権は著作者である「河野 広さん」にあります。

「平成ため池考」(四国新聞に平成8年12月3日より4日間連載)

河 野 広

宮崎県出身

農水省九州農業試験場農地利用部長、同農業工学研究所企画連絡室長などを経て、
平成3年から香川大学農学部教授

南九州短期大学 教養科教授(平成13年5月 現在)

保全と活用を探る

1 現状と課題

香川用水さえあれば、県に渇水はないという「早明浦神話」が崩れて久しい。早明浦ダムの貯水率は約2カ月半ぶりに70%を超え、取水制限解除の可能性も出てきたが、長期的にみて厳しい状況に変わりはない。そこでクローズアップされているのが、ため池。父祖伝来の遺産をどう活用するかは、平成の今を生きる私たちに課せられた大きな問題だ。田園環境工学という新しい分野を切り開きつつある香川大学農学部の河野広教授(水資源管理学)に、その保全と活用法について問題提起してもらった。

香川は、面積当たりのため池数密度が、全国一位。古来から、ため池県として知られる。県内の水田面積は78%を占め、全国上位にランクされる。典型的な瀬戸内気候で水不足に悩まされてきた先人が、長い年月をかけて築造してきた1万6千を超えるため池によって気象上の不利な条件を克服したのである。主食であるコメの生産に、いかに大きな情熱を傾けてきたかをうかがい知ることができよう。

県内のため池の総貯水容量は、早明浦ダムの利水・洪水調節容量の56%に相当する。水田は一枚一枚の区画がアゼで囲まれており、わが国水田の全有効貯水容量は、全ダム洪水調節容量の1.4倍の大きさである。水田の洪水調節機能がいかに大きいかは、容易に想像できよう。

水田は、国土保全観点から優れた土地利用形態といえる。

しかし、ため池の多くは、築造後200年～300年を経過して老朽化が進んでおり、地震時の亀裂発生、漏水による事故が心配される。農村地域の宅地造成の進展などで、雨水の土中侵入度が低下し、ため池への流入が降雨直後に集中するため、余水はけの能力が不足し、台風や豪雨時などに堤防自体の決壊の危険性も増大している。たい積した底泥のしゅんせつ作業が十分でないため、貯水容量も減少している。

この10月、学生の卒業研究で、ため池水質の現地調査に同行した。幾つかは周辺に草が生い茂り、管理が十分でない印象を受けた。混住化の進展にもかかわらず、利用は依然として農業に限定され、しかも農業生産の労力節減が進んだことなどで、管理体制が弱体化したのだろう。

ため池の多くは、家庭排水の流入などで、富栄養化、汚濁が進んでいる。ため池はもともと集水域からの流出水や排水が集まりやすい立地条件にあるため、平野部や市街地近傍に位置するため池にその傾向が強く、農業用水の水質基準を上回っていることが多い。

一世代前まで、子供たちはため池で水遊びをしていた。汚濁が進行し、子供たちにとって危険な遊び場になったのは、ため池の長い歴史に比べると最近のことである。

物質的豊かさを追及する過程で、一見非合理的と思えるものに人々の関心や共有感が薄れ、放置されたり失われるものが多い。古来から地域共有の社会資産として大切に継承され、多面的に利用されてきたため池も、今や地域住民や子供たちにとって親しみを感じる存在ではないようだ。

私たちはこの半世紀の間に、水資源に限りがあることを痛感し水が汚れやすいことを知った。いずれも生活形態や水への関心によるところが大きい。

地域を流れる水は、体の血液に似て生活様式を反映し、環境の健康状態を表している。今、地域水環境の再構築について歴史的経過を踏まえ検討する必要があるだろう。その際、農耕民族として、古来から自然と共生してきた日本人本来の姿を思い浮かべ、人間活動と環境とのかかわりを開発・前進型から共生・循環型へ転換すべきであると思う。

田園都市香川を構築する過程で、現代に生きる私たちは、ため池の社会的役割をどのように継承・展開していくべきであろうか。専門領域として志向しつつある田園環境工学の視点から、考察したい。

2 ビオトープとして

水田の歴史よりはるかに古くからはぐくまれてきた日本特有の生態系が今、崩壊の危機にさらされている。

かつて、県内でも多く見かけたダルマガエルは、水田やため池など農業生産のために造成された空間（ビオトープ）に生息していたが、今では全国でもごく限られた地域に生息する「希少種」となっている。

野生の生物は絶滅していない限り、その生息環境を与えれば復元するといわれ、ビオトープは21世紀に向けた社会資本整備に欠かせない要素となりつつある。

ビオトープに関し、関東平野の台地上で、木陰にビニールシートで敷いて作った人工池にトンボが住みついて話題になったことがある。また、校庭の一部分を利用して小さな水たまりを

作り、自然観察教育をしている事例は、各地に見られる。このほか、たくさんの事例があるが、わが国におけるビオトープへの関心は、歴史が浅く、いまだ小規模にとどまっている。

諸外国では、湿地だった農地を再び元の広大な湿地に戻す自然再生が行われたり、村落再整備計画の一環として、自然保護、景域保全の観点からビオトープのネットワーク化が図られるなど、自然生態系の復活、保全に向け大がかりな事業が進められている。

農業生産性向上の観点から進められてきた土地の開発・造成の考え方に対し、別の側面から人の生活と健康に深いかかわりを持つ自然環境の保全について、大きな関心が寄せられていることを示すものであろう。

ため池は、自然の地形に沿って造られ、長い年月を経て周辺の環境と一体化している。水田や水路に連続しており、本来ビオトープとしての条件に恵まれた貴重な存在である。従って今後のため池の整備は、ビオトープとしての機能を一層高める観点から検討することが望ましい。

例えば、水際の地形が緩やかで陸地の植生から水生植物へ移り変わる推移帯は、微気象変化が大きいため、生息する動植物の種類が多く、自然生態系を豊かにするといわれる。

堤防の一部にそのような推移帯を設けることは、困難ではあるまい。それによって、水辺への人の接近を容易にし、親水性を高めることもできる

今年の夏、高松市中央部の屋敷林でセミが激しく鳴いているのを聞き、わずか数本の木のまとまりから構成される空間に、自然生態系が保全されていることを実感した。

都市の屋敷林は小さな空間であり、ビオトープのネットワークは十分でないうえ、単調な植物群落で構成されている。しかし、生物の生息環境としての条件が満たされれば、なんらかの自然生態系が存在し得ることを示す例であるといえよう。

ため池は、屋敷林に比べ大きく、水、土、植物などの多様な環境要素から構成されている。地域空間に点在するため池の配置は、ビオトープネットワークの拠点として見た場合、まさに絶妙である。

豊かな自然生態系は、多様な生物相をはぐくむとともに、地域空間における物質循環を活性化させ、人の生活環境を健全にする。ビオトープとしてのため池の存在は貴重であり、積極的な保全・活用を図るべきであると思う。

3 水資源として

21世紀の地球は、人口と食糧のバランスにおいて、大変厳しい状況を呈すると考えられている。食糧は現時点で、既に慢性的な不足状態で、多数の人々が飢えに苦しんでいる。今後生産の伸びはほとんど望めないのに対し、人口の増大は当分の間止まらないというのが大方の予測だ。

日本の食糧自給率は、先進国で最低で、かつ依然、低下傾向を示し、世界の食糧と環境に大

きな負荷を与えている。

21世紀に向け、日本が自ら食糧の安定的確保を図り、世界の食糧需給安定化に積極的に貢献する必要があることは論をまたない。安全な食糧を適切に供給することについて、日本人の意識改革が求められている。

初夏、上空から見る国土は、緑豊かな森林で覆われ、平野の大部分に水をたたえた水田が広がっている。わが国の水田は、二千年以上、肥沃性を維持し続け、食糧生産と環境保全を調和させてきた。世界的にみて理想的な農地生態系であるといわれるゆえんだ。

ダム方式による水資源開発は、それに要する年数、費用、適地などの点で限界に近付いているといわれる。海水の淡水化は、地球規模のエネルギー事情からみて、特例的手段ではあっても、恒常的、一般的な用水源とする点では慎重な検討が必要だろう。

一方、県内のため池の総貯水量は、約1億5千万トンで、香川用水以後も依然として農業用水の主水源であることに変わりはない。香川用水からの供給水をため池に一時貯留することで、水田の時間的な水需要変動を吸収し、用水の有効利用に役立てている。河川に恵まれない香川にとって、水資源としてのため池の存在は大きい。水の有効利用についてみると、現在、工業用水の回収率は、全国平均で80%に達している。上水道は、新しく建設される大型ビル、公共施設、住宅団地などを対象に、節水対策の一環として、雑用水利用が行われている。このような小さな空間内での水循環利用システムは、既にかんがりの実績があり、今後とも進展するものと考えられる。

広域の水循環利用システムの例としては、琵琶湖の周辺水田で、ポンプなどで湖水を再利用する逆水かんがいから行われている。広域的水循環利用システムは、人間活動と環境のかかわりを共生、循環型へ転換する具体的な一つの形態である。ため池の貯水機能は、そのシステムの中核的存在で、水資源問題への寄与は大きい。水田の年間用水量は、上、工、農水など全需要量の約六割を占めるが、その七割は土壤中に浸透し地下水かん養に寄与している。香川用水で増大した地下水をポンプアップし、再度高位部のため池に貯留し、新たな地域共有の水資源として循環利用すれば、用水の一層の有効利用が図られよう。

1グラムの表土の中には1千万～1億という天文学的な数の微生物が生息しており、その有機物分解能力は国土全体で年間1億トン以上といわれる。ため池と水田がリンクした広域的水循環利用システムで、土壌微生物による壮大な規模の環境浄化が一層促進されれば、化学肥料の抑制を促し、豊かな農地生態系を形成することにつながろう。

4 コミュニティーの場合

古来から水田用水路は、地域、集落内を流れる過程で生活用水や防火用水などとしても多面的に利用され、地域共有の貴重な資源として大切に維持管理されてきた。また、水路を流れる

水の量的、質的管理制御を通じて、上下流間の人のきずなを強めるとともに、水にまつわる行事などを通じ、利害対立を超越させ、地域コミュニティの形成に深くかかわってきた。

「春の小川」として親しまれ、子供にとって快適かつ安全な遊び場であったのだ。

長尾町最大のため池の宮池は、古くから桜や森の緑とが調和する東讃の名勝として広く知られている。2年前、水環境整備事業で岸辺を補強整備するのと併せ、親水ゾーンを造成し、町の有志によって花ショウブが植栽された。

新聞報道によると、今年6月のショウブ祭りは、人出が一段と増え、生産物の販売、各種イベントなどが盛大に行われたという。ため池の貯水機能を保全するとともに、固有の景観と親水空間を創出することで、新たな地域コミュニティの場づくりにため池が活用された例といえよう。

水は、地球上の生命誕生に深いかかわりを持っていることから、生命のルーツであるといわれ、人間のあらゆる思考や行動の根底にも水が関係しているといわれる。人が水辺にひかれて散策し、親しみと安らぎを覚えるのに関連があるのかもしれない。

生物、水辺への接近は、人間の自然回帰の一つであり、心身の健全性を向上させてくれるように思う。コミュニティの場、親水空間、あるいは田園景観としてのため池には、美しい水をたたえていることが欠かせない。富栄養化、汚濁が進んでいるため池の水質改善に対し、何らかの方策が考えられるべきである。

海外旅行で異文化への魅力を感じるのは、歴史的な建物や街並み、地方の伝統的行事や美しい田園景観である。それらの多くは、長年月にわたる人の働きかけの結果だといわれる。

香川のため池は、まさにその典型である。長い年月の過程で近隣の林や社寺などと一体となって固有の空間を形成し、讃岐平野に広がる美しい田園景観の一つとなっている。また、香川の自然環境や歴史・文化に裏打ちされたかけがいのない地域資源であり、伝説や伝統行事にかかわっていることも多い。

近年、ため池に対する人々の関心が稀薄になり、維持管理がおろそかになるのに伴い、それらの継承体制も弱体化し、歴史的、文化的資産が失われつつある。ため池の保全・整備には、豊かな緑とゆとりある空間を十分活用するとともに、周辺景観や地域固有の歴史的、文化的側面を一体的に検討することが大切だろう。

交通・通信の進歩によって距離感が短縮し、情報伝達が迅速化された現代社会は、小さな地域空間の中で生産、生活などの人間活動が完結する時代ではない。旧来の地域コミュニティの拘束から解放され、やがて広域コミュニティへ変ぼうすることだろう。

ため池の保全・活用に当たっても、ビオトープとしての適正配置、水資源として確保すべき容量の視点とともに、ため池の統合管理や整備の多様化など、コミュニティの変ぼうへの対応が必要だろう。

農村は単なる農業生産の場ではない。都市にはない豊かな緑空間と親水空間をもつ安らぎの場であり、多くの人にとって心の古里でもある。香川において、ため池はそのシンボリック的存在であり、保全と活用について、多面的な論議をすべき時であると思う。

お　わ　り

高松市屋島東町土地改良区管内

001 宮ノ窪上池（通称 上池）

所在地	高松市屋島東町字女向羅 2 0 1		
池の規模	堤長	6 7 メートル	
	堤高	5 メートル	
	満水面積	0. 1 2 ヘクタール	
	貯水量	3. 3 千立方メートル	
	かんがい面積	無し	
築造の由来	江戸時代築造		
改築の経緯	不明		
水利慣行等	不明		
逸話伝説	無し		
備考	前の管理者宮本熊太郎が昭和 4 0 年頃死亡してより、妻フジノが管理しているが、その後田畑の耕作をやめ、かんがい用水が不要となったので、池の周辺は雑木及び笹竹が密生し放置状態である。 宮本フジノ		

002 宮ノ窪下池（通称 下池）

所在地	高松市屋島東町字女向羅 2 5		
池の規模	堤長	7 0 メートル	
	堤高	4. 5 メートル	
	満水面積	0. 1 4 ヘクタール	
	貯水量	3. 4 千立方メートル	
	かんがい面積	無し	
築造の由来	江戸時代築造。		
改築の経緯	不明		
水利慣行等	不明		
逸話伝説	無し		
備考	現状は宮ノ窪上池と同じであるが、池に隣接した土地を購入した家人が、池の堤防も自分の所有だと主張し、鉄の門扉を架設しているので、池の全貌をみることができない。 宮本フジノ		

003 井坪池

備考 何時の頃か埋立てて池無し。
宮本フジノ

004 松本一号池

所在地 高松市屋島東町字別場42
池の規模 堤長 55メートル
堤高 5メートル
満水面積 0.09ヘクタール
貯水量 2.4千立方メートル
かんがい面積 畑にかんがいするのみ
築造の由来 築造年は記録が無く、江戸時代とのみ言い伝えがある。
改築の経緯 不明
水利慣行等 不明
逸話伝説 無し
備考 水田が無くなっている所以、堤防は雑木及び笹竹が密生し放置状態である。
高橋末清

005 松本二号池

所在地 高松市屋島東町字間家44
池の規模 堤長 58メートル
堤高 5メートル
満水面積 0.05ヘクタール
貯水量 1.3千立方メートル
かんがい面積 畑にかんがいするのみ
築造の由来 築造年は記録が無く、江戸時代とのみ言い伝えがある。
改築の経緯 不明
水利慣行等 不明
逸話伝説 無し
備考 水田が無くなっている所以、堤防は雑木及び笹竹が密生し放置状態である。
高橋末清

006 高橋池

所在地	高松市屋島東町字間家60	
池の規模	堤長	45メートル
	堤高	4.5メートル
	満水面積	0.09ヘクタール
	貯水量	2.2千立方メートル
	かんがい面積	畑にかんがいするのみ
築造の由来	江戸時代築造。	
改築の経緯	不明	
水利慣行等	不明	
逸話伝説	無し	
	高橋末清	

007 大浦上池

所在地	高松市屋島東町字間家70	
池の規模	堤長	50メートル
	堤高	3メートル
	満水面積	0.03ヘクタール
	貯水量	0.5千立方メートル
	かんがい面積	約0.05ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造	
改築の経緯	堤防を改築したことがあるが、その改築年及び規模については記録がない。	
水利慣行等	無し	
逸話伝説	無し	
	大浦光雄	

008 大浦下池

所在地	高松市屋島東町字間家84	
池の規模	堤長	35メートル
	堤高	3メートル
	満水面積	0.03ヘクタール
	貯水量	0.5千立方メートル
	かんがい面積	0.1ヘクタール

築造の由来	江戸時代築造
改築の経緯	不明
水利慣行等	不明
逸話伝説	無し
備考	新道が造成され、宅地化が進んだので田畑が減少している。 大浦光雄

009 高橋池

所在地	高松市屋島東町字善太林89-1
池の規模	堤長 35メートル 堤高 2.5メートル 満水面積 0.03ヘクタール 貯水量 0.4千立方メートル かんがい面積 畑にかんがいするのみ
築造の由来	江戸時代築造
改築の経緯	昭和51年9月の大雨で、高橋池の上部の池が決壊して、この池に土砂が流入したので、公的助成金と受益者の負担金によって改築した。この時負担金についてトラブルがあり、受益者の一人が取水の権利を放棄した。
水利慣行等	慣行は昔あったが今は無い。
逸話伝説	昔、子供が誤ってこの池に転落して亡くなった。これを哀れんだ村人達が謀って、この池の東南隅に高さ約60センチメートルの後背舟型不動明王石像を建立した。この石像には制作年・建立年ともに刻していないので、祀った時期は不明であるが、石の風化の程度から相当古い時代のものと思われる。 高橋末清

010 三口池

011 大浦中池

012 竹内池

013 大浦下池

備考	四つの池は、新道山の手線造成の際提供し、この時宅地も造成したのでため池は無いという。 現地へ行ったことがないので池の場所は知らないという。芳雄は先々
----	---

の管理者大浦留雄の孫、先の管理者大浦與三郎の息子で80才を過ぎる高齢者。

大浦芳雄

014 宮本池

所在地	高松市屋島東町字北石場 1 2 5		
池の規模	堤長	3 7 メートル	
	堤高	5 メートル	
	満水面積	0 . 0 6 ヘクタール	
	貯水量	1 . 6 千立方メートル	
	かんがい面積	無し	
備考	ため池があることを聞いたことがないし、行ったことも無い。したがって水利慣行、逸話伝説は知らないという。近くの老人に尋ねると、昔はあったが今は無いのではという。		

015 藤重池

所在地	高松市屋島東町字北石場 1 2 7		
池の規模	堤長	3 8 メートル	
	堤高	5 メートル	
	満水面積	0 . 0 3 ヘクタール	
	貯水量	0 . 6 千立方メートル	
	かんがい面積	無し	
築造の由来	約 4 0 0 年位前に、阿波の国から移住してきたとの言い伝えがあるので、移住の後の江戸時代前期頃に築造したものと思われるが、記録が無いので確実な時代はわからない。		
改築の経緯	改築したであろうと思うが記録が無い。		
水利慣行	不明		
逸話伝説	無し		
備考	本調査が 3 0 年早ければ、祖父や父が健在であったのにとのことであつた。 藤岡一夫		

016 藤辰池

備考 新道山の手線が造成された時、一部を提供し残余は畑とした。
藤岡弘樹

017 大浦奥池

018 大浦留池

019 大浦南池

備考 三つの池は、新道山の手線造成の際提供し、この時宅地も造成したのでため池は無い。現地へ行ったことがないので、ため池の場所は知らない。芳雄は管理者の孫、また後継者であり、80才を過ぎる高齢者である。
大浦芳雄

020 藤岡堀池

所在地 高松市屋島東町字北石場172

池の規模 堤長 31メートル
堤高 2.5メートル
満水面積 0.01ヘクタール
貯水量 0.1千立方メートル
かんがい面積 無し

築造の由来 江戸時代築造

改築の経緯 約30年前に堤防を改築したことがあるが、詳細は不明。

水利慣行等 無し

逸話伝説 昔、自宅の裏にあるこの池の細い坂道に、高坊主が出るとの噂がたち村人が恐ろしがったので、藤岡喬の先祖がため池の南東隅に高さ約60センチメートルの後背舟型不動明王石像を祀ったところ、高坊主は出なくなったという。
藤岡 喬

021 藤茂池

所在地 高松市屋島東町字北石場188

池の規模 堤長 58メートル
堤高 4メートル
満水面積 0.10ヘクタール

	貯水量	2. 2千立方メートル
	かんがい面積	無し
築造の由来	約400年前に阿波の国から移住してきたとの言い伝えがあるので、江戸時代前期の築造でなかろうか。	
改築の経緯	不明	
水利慣行等	不明	
逸話伝説	無し	
	藤岡一夫	

022 ネコ池

所在地	高松市屋島東町字北石場190-1	
池の規模	堤長	44メートル
	堤高	4メートル
	満水面積	0.07ヘクタール
	貯水量	1.5千立方メートル
	かんがい面積	約0.1ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造 池名は猫の額ほどの小さいため池ということから、名づけられたという。	
改築の経緯	不明	
水利慣行等	不明	
逸話伝説	無し	
	藤岡一夫	

023 藤重池

所在地	高松市屋島東町字北石場208	
池の規模	堤長	28メートル
	堤高	4メートル
	満水面積	0.04ヘクタール
	貯水量	1.5千立方メートル
	かんがい面積	無し
築造の由来	約400年前に阿波の国から移住してきたとの言い伝えがあるので、江戸時代前期の築造でなかろうか。	
改築の経緯	不明	

水利慣行等	不明
逸話伝説	無し
	藤岡一夫

024 谷池

所在地	高松市屋島東町字北石場 2 2 0
池の規模	堤長 5 0 メートル
	堤高 3 メートル
	満水面積 0. 0 7 ヘクタール
	貯水量 1. 1 千立方メートル
	かんがい面積 約 0. 0 5 ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造
改築の経緯	不明
水利慣行等	不明
逸話伝説	無し
	藤岡一夫

025 会堂北池

所在地	高松市屋島東町字北石場 2 4 6
池の規模	堤長 7 0 メートル
	堤高 3. 5 メートル
	満水面積 0. 0 9 ヘクタール
	貯水量 1. 7 千立方メートル
	かんがい面積 約 0. 0 5 ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造
改築の経緯	無し
水利慣行等	無し
逸話伝説	無し
	藤岡稔雅

026 藤岡池

所在地	高松市屋島東町字北石場 2 5 5 - 4
池の規模	堤長 5 2 メートル

	堤高	2. 5メートル
	満水面積	0. 02ヘクタール
	貯水量	0. 2千立方メートル
	かんがい面積	0. 02ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造	
改築の経緯	放水口の決壊や漏水のため堤防改修2～3回あり。記録が無い ため詳細不明。	
水利慣行等	無し	
逸話伝説	無し	
	藤岡一朗	

027 カラ池

所在地	高松市屋島東町字北石場296	
池の規模	堤長	51メートル
	堤高	3メートル
	満水面積	0. 10ヘクタール
	貯水量	0. 7千立方メートル
	かんがい面積	約0. 04ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造。大雨で満水になっても、2～3日もすれば漏水してカラになる。このことからカラ池というようになったと言う。調査時も水は全く無く草が密生している。	
改築の経緯	無し	
水利慣行等	不明	
逸話伝説	無し	
	藤岡稔雅	

028 ネコ下池

所在地	高松市屋島東町字北石場300	
池の規模	堤長	46メートル
	堤高	2. 5メートル
	満水面積	0. 05ヘクタール
	貯水量	0. 7千立方メートル
	かんがい面積	約0. 1ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造	

改築の経緯	不明
水利慣行等	不明
逸話伝説	無し
	藤岡一夫

029 ネコ池

所在地	高松市屋島東町字北石場 3 0 3
池の規模	堤長 4 7 メートル
	堤高 5 メートル
	満水面積 0. 1 1 ヘクタール
	貯水量 3. 0 千立方メートル
	かんがい面積 約 0. 1 ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造
改築の経緯	不明
水利慣行等	不明
逸話伝説	無し
	藤岡一夫

030 ナカマ池

所在地	高松市屋島東町字山下 3 0 4
池の規模	堤長 6 7 メートル
	堤高 3 メートル
	満水面積 0. 2 0 ヘクタール
	貯水量 3. 3 千立方メートル
	かんがい面積 約 0. 1 5 ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造
改築の経緯	不明
水利慣行等	不明
逸話伝説	無し
	藤岡保夫

031 富前池

所在地	高松市屋島東町字山下311	
池の規模	堤長	52メートル
	堤高	3.5メートル
	満水面積	0.13ヘクタール
	貯水量	2.5千立方メートル
	かんがい面積	0.05ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造	
改築の経緯	無し	
水利慣行等	不明	
水利紛争	昔、水利紛争があったと聞いたことがあるが、記録が無いので詳細不明。	
逸話伝説	無し	
	藤岡稔雅	

032 国宗池

備考	新道山の手線造成の際、一部提供し残余は畑とした。 国宗日出子
----	-----------------------------------

033 松本池

所在地	高松市屋島東町字山下332	
池の規模	堤長	38メートル
	堤高	5メートル
	満水面積	0.12ヘクタール
	貯水量	3.3千立方メートル
	かんがい面積	約0.08ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造	
改築の経緯	無し	
水利慣行等	無し	
逸話伝説	無し	
	松本和可子	

034 山神池

所在地	高松市屋島東町字山下335	
池の規模	堤長	57メートル

堤高	5メートル
満水面積	0.09ヘクタール
貯水量	2.4千立方メートル
かんがい面積	無し

築造の由来 江戸時代築造
この池の辺りに、昔、山の神を祀っていたので、池名を山神池と名付けたらしい。

改築の経緯 不明

水利慣行等 不明

逸話伝説 無し

松本和可子

035 藤岡池

所在地 高松市屋島東町字山下342

池の規模	堤長	10メートル
	堤高	4.2メートル
	満水面積	0.02ヘクタール
	貯水量	0.4千立方メートル
	かんがい面積	約0.01ヘクタール

築造の由来 江戸時代築造

改築の経緯 無し

水利慣行等 無し

逸話伝説 無し

藤岡恒雄

036 恒一池

所在地 高松市屋島東町字山下343

池の規模	堤長	10メートル
	堤高	4.2メートル
	満水面積	0.03ヘクタール
	貯水量	0.7千立方メートル
	かんがい面積	約0.01ヘクタール

築造の由来 江戸時代築造

改築の経緯 不明

水利慣行等	不明
逸話伝説	無し
	藤岡恒雄

037 太次郎池

所在地	高松市屋島東町字山下345
池の規模	堤長 18メートル
	堤高 4メートル
	満水面積 0.04ヘクタール
	貯水量 0.8千立方メートル
	かんがい面積 約0.1ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造
改築の経緯	無し
水利慣行等	無し
逸話伝説	無し
	藤岡恒雄

038 中村池

備考	管理者は居住せず、ため池も無いという。
	藤岡保夫

039 伊三郎池

所在地	高松市屋島東町字山鹿351
池の規模	堤長 29メートル
	堤高 5メートル
	満水面積 0.08ヘクタール
	貯水量 2.2千立方メートル
	かんがい面積 約0.04ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造
改築の経緯	無し
水利慣行等	無し
逸話伝説	無し
	藤岡稔雅

040 大高池

備考 田畑無し。池水は使用しておらず。
藤岡保夫

041 大高池

備考 田畑無し。池水は使用しておらず。
藤岡保夫

042 古池

所在地 高松市屋島東町字山鹿 3 6 0
池の規模 堤長 3 1 メートル
堤高 5 メートル
満水面積 0. 0 5 ヘクタール
貯水量 1. 3 千立方メートル
かんがい面積 0. 0 5 ヘクタール
築造の由来 江戸時代築造
改築の経緯 無し
水利慣行等 不明
逸話伝説 無し
藤岡一朗

043 唯英池

所在地 高松市屋島東町字山鹿 3 6 3
池の規模 堤長 3 7 メートル
堤高 4 メートル
満水面積 0. 0 7 ヘクタール
貯水量 1. 3 千立方メートル
かんがい面積 約 0. 0 5 ヘクタール
築造の由来 江戸時代築造
改築の経緯 昭和 1 0 年頃堤防改修、詳細不明
水利慣行等 不明
水利紛争 無し
逸話伝説 無し
藤岡君子

044 キソベ池

所在地	高松市屋島東町字山鹿364	
池の規模	堤長	35メートル
	堤高	3.5メートル
	満水面積	0.06ヘクタール
	貯水量	1.1千立方メートル
	かんがい面積	不明
築造の由来	江戸時代築造 池名は藤岡保夫の祖父の名をつけた。	
改築の経緯	不明	
水利慣行等	不明	
逸話伝説	無し	
	藤岡保夫	

045 平常池

所在地	高松市屋島東町字山鹿365	
池の規模	堤長	51メートル
	堤高	4.2メートル
	満水面積	0.18ヘクタール
	貯水量	4.1千立方メートル
	かんがい面積	0.2ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造	
改築の経緯	無し	
水利慣行等	無し	
逸話伝説	無し	
	藤岡 治	

046 四八池

所在地	高松市屋島東町字山鹿367	
池の規模	堤長	35メートル
	堤高	5.2メートル
	満水面積	0.06ヘクタール
	貯水量	1.7千立方メートル
	かんがい面積	無し

築造の由来	江戸時代築造。池名は前の管理者村井四八の名をつけた。かんがいする田畑は無く、埋立てて山化している。		
改築の経緯	不明		
水利慣行等	不明		
逸話伝説	無し		
	村井則夫		

047 宮宇地池

所在地	高松市屋島東町字山鹿 3 7 6		
池の規模	堤長	5 0 メートル	
	堤高	4 メートル	
	満水面積	0． 1 1 ヘクタール	
	貯水量	2． 4 千立方メートル	
	かんがい面積	無し	
築造の由来	江戸時代築造。		
改築の経緯	不明。		
水利慣行等	不明。		
逸話伝説	無し。		
備考	かんがいする田畑はなく、ため池は山化している。 大高信忠		

048 山鹿池

所在地	高松市屋島東町字山鹿 3 7 9		
池の規模	堤長	3 5 メートル	
	堤高	4 メートル	
	満水面積	0. 1 3 ヘクタール	
	貯水量	2. 8 千立方メートル	
	かんがい面積	無し	
築造の由来	江戸時代築造		
改築の経緯	不明		
水利慣行等	不明		
逸話伝説	無し		
備考	かんがいする田畑は無く、ため池は山化している。 大高信忠		

049 コンピラ北池

所在地	高松市屋島東町字山鹿 3 8 8	
池の規模	堤長	4 3 メートル
	堤高	7 メートル
	満水面積	0. 1 3 ヘクタール
	貯水量	5. 0 千立方メートル
	かんがい面積	無し
築造の由来	江戸時代築造	
改築の経緯	不明	
水利慣行等	不明	
逸話伝説	無し	
	藤岡保夫	

050 コンピラ北下池

所在地	高松市屋島東町字鯨崎 3 8 9	
池の規模	堤長	4 4 メートル
	堤高	6. 2 メートル
	満水面積	0. 0 9 ヘクタール
	貯水量	3. 0 千立方メートル
	かんがい面積	無し
築造の由来	江戸時代築造	
改築の経緯	不明	
水利慣行等	不明	
逸話伝説	無し	
備考	かんがいする田畑無く、ため池を確認できても放置しているので笹竹が密生してはいれず。	
	藤岡保夫	

051 暮場前池

備考	埋立てて ため池無し。
	藤岡国行

052 新池上池

所在地	高松市屋島東町字鯨崎409	
池の規模	堤長	26メートル
	堤高	4.5メートル
	満水面積	0.09ヘクタール
	貯水量	2.2千立方メートル
	かんがい面積	畑にかんがいするのみ。
築造の由来	江戸時代築造	
改築の経緯	不明	
水利慣行等	特に無し	
水利紛争	昔は、屋島山よりの取り水しているこの池の受益者と、下部の池を使用している受益者との間で、度々紛争があったが、記録がないのでその詳細はわからない。現在は紛争が全く無い。	
逸話伝説	無し	
	山下近太郎	

053 新池中池

所在地	高松市屋島東町字鯨崎412	
池の規模	堤長	20メートル
	堤高	3.0メートル
	満水面積	0.06ヘクタール
	貯水量	0.9千立方メートル
	かんがい面積	畑にかんがいするのみ
築造の由来	江戸時代築造	
改築の経緯	底の泥さらいをしたことがあるが、改築の記憶は無い。	
水利慣行等	慣行はあったと思うが知らない。	
逸話伝説	無し	
	鯨崎忠良	

054 新池

所在地	高松市屋島東町字鯨崎417	
池の規模	堤長	48メートル
	堤高	3.5メートル
	満水面積	0.11ヘクタール
	貯水量	2.1千立方メートル
	かんがい面積	約0.05ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造。湧水池。	
改築の経緯	昭和60年頃内壁のコンクリート工事をした。	
水利慣行	無し	
水利紛争	昔はよく水利紛争があったと聞いたが、その詳細は知らない。	
逸話伝説	無し	
	木村 功	

055 前池

所在地	高松市屋島東町字鯨崎432	
池の規模	堤長	31メートル
	堤高	5.0メートル
	満水面積	0.10ヘクタール
	貯水量	2.7千立方メートル

	かんがい面積 約0.3ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造
改築の経緯	昭和48年改修、詳細不明。
水利慣行等	不明
逸話伝説	無し
	藤岡保夫

056 藤岡池

所在地	高松市屋島東町字鯨崎438-2
池の規模	堤長 20メートル
	堤高 2.5メートル
	満水面積 0.01ヘクタール
	貯水量 0.1千立方メートル
	かんがい面積 無し
築造の由来	江戸時代築造
改築の経緯	不明
水利慣行等	不明
逸話伝説	無し
備考	池の南部約90パーセント埋め立てて、北部に池の名残のみあり。
	藤岡保夫

057 オビ池

備考	新道山の手線造成の時高松市へ返還し、埋め立ててため池無し。
	藤岡恒雄

058 小池

備考	埋め立てて池無く、宅地となっている。
	山田定広

059 綿打池

所在地	高松市屋島東町字次信656
池の規模	堤長 140メートル
	堤高 7.0メートル

満水面積 0. 5 9ヘクタール
 貯水量 22. 7千立方メートル
 20. 0千立方メートル（平成八年現在）
 かんがい面積 3. 4 8 6ヘクタール
 かんがい地域 字次信 字四通 字尾越

綿打池掛受益面積の変遷

明治14年	農地（水田）	5. 4 9 2 7ヘクタール
	内訳 字次信	0. 7 2 2 3ヘクタール
	字四通	3. 9 9 0 5ヘクタール
	字尾越	0. 7 7 2 9ヘクタール
平成8年	農地等	3. 4 8 0 6ヘクタール
	内訳 水田	2. 3 6 1 2ヘクタール
	畑地に変更	0. 7 1 2 5ヘクタール
	雑種地	0. 3 9 2 9ヘクタール
	農地転用	1. 4 6 0 1ヘクタール

字別現況（単位・ヘクタール）

種 別	字 次 信	字 四 通	字 尾 越
水 田	0. 4 8 1 7	1. 6 6 2 3	0. 2 1 1 2
畑 地	0. 1 0 1 8	0. 3 9 2 4	0. 2 1 1 3
雑種地	0. 0 7 1 4	0. 3 2 1 5	
農転地	0. 1 5 2 4	1. 3 0 0 7	

築造の由来	江戸時代築造
改築の経緯	昭和48年度サイホンゆるぬき設置 昭和62年度機械ゆるぬき止弁二基設置 昭和62年度堤防内法改修
水利慣行等	不明
逸話伝説	無し 谷本定弘 山田定弘

060 小池

所在地	高松市屋島東町字開701-4
池の規模	堤長 19メートル 堤高 2. 5メートル

	満水面積	0. 0 1 ヘクタール
	貯水量	0. 1 千立方メートル
改築の経緯	不明	
水利慣行等	不明	
逸話伝説	不明	
備考	管理者居住せず。田畑は無く池はカラ池となっている。 大高信忠	

0 6 1 継信小池

所在地	高松市屋島東町字間 7 2 1	
池の規模	堤長	3 5 メートル
	堤高	3. 7 メートル
	満水面積	0. 0 3 ヘクタール
	貯水量	0. 6 千立方メートル
	かんがい面積	無し
築造の由来	江戸時代築造	
改築の経緯	不明	
水利慣行等	不明	
逸話伝説	不明	
備考	管理者居住せず。田畑は無く池はカラ池となっている。 大高信忠	

0 6 2 継信池

所在地	高松市屋島東町字鯨崎 3 9 4	
池の規模	堤長	6 2 メートル
	堤高	5. 0 メートル
	満水面積	0. 2 5 ヘクタール
	貯水量	6. 8 千立方メートル
	かんがい面積	約 0. 4 ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造 寛永年間、高松藩祖松平頼重公が、寿永四年（1 1 8 5）源平合戦の時、源義経の矢面にたって平家の武将能登守教経の強弓に倒れた佐藤継信を顕彰するため、屋島の東麓の遍路道に藩儒岡部拙斎に命じて石	

碑を建立した。このことによって、これよりこのため池を継信池とよぶようになった。

水利慣行等 不明

逸話伝説 昔、このため池の下手の家の子供が、このため池に転落水死したので、小さい後背舟型不動明王石像を建立して供養している。この石像は二体ある。

備考 このため池は、屋島では少ない湧水池である。
藤岡恒雄

063 小池

所在地 高松市屋島東町字間743-1

池の規模 堤長 41メートル
堤高 4.5メートル
満水面積 0.05ヘクタール
貯水量 1.2千立方メートル
かんがい面積 0.13ヘクタール

築造の由来 江戸時代築造

改築の経緯 無し

水利慣行等 無し

逸話伝説 無し

村井則夫

064 上池

所在地 高松市屋島東町字間751-1

池の規模 堤長 25メートル
堤高 4.2メートル
満水面積 0.05ヘクタール
貯水量 1.1千立方メートル
かんがい面積 0.1ヘクタール

築造の由来 江戸時代築造

改築の経緯 無し

水利慣行等 無し

逸話伝説 無し

065 継信上池

所在地	高松市屋島東町字間753	
池の規模	堤長	26メートル
	堤高	3.5メートル
	満水面積	0.05ヘクタール
	貯水量	0.9千立方メートル
	かんがい面積	無し
築造の由来	江戸時代築造	
改築の経緯	不明	
水利慣行等	不明	
逸話伝説	不明	
備考	管理者居住せず。田畑は無し。	
	大高信忠	

066 坂本池

所在地	高松市屋島東町字間756	
池の規模	堤長	15メートル
	堤高	3.7メートル
	満水面積	0.05ヘクタール
	貯水量	1.0千立方メートル
	かんがい面積	無し
築造の由来	江戸時代築造	
改築の経緯	不明	
水利慣行等	不明	
逸話伝説	不明	
備考	管理者居住せず。田畑は無し。	
	大高信忠	

067 ゼンモン池

所在地	高松市屋島東町字亀虎760	
池の規模	堤長	30メートル

堤高 4. 5メートル
満水面積 0. 03ヘクタール
貯水量 0. 7千立方メートル
かんがい面積 無し

築造の由来 江戸時代築造。池名は僧侶の名をつけたということを聞いたが、はっきりとはわからない。

改築の経緯 不明

水利慣行等 不明

逸話伝説 不明

備考 田畑は無く、山化している。山吉呉服店が山下竹夫より購入したが、この頃より現状のままであったと言う。
現地へは踏み込めず。
大高信忠

068 スリバチ池

所在地 高松市屋島東町字亀虎778

池の規模 堤長 50メートル
堤高 4. 5メートル
満水面積 0. 17ヘクタール
貯水量 4. 2千立方メートル
かんがい面積 他の三池とともに0. 5ヘクタール

築造の由来 江戸時代築造。ため池の内壁が急角度になっているので、スリバチ池と名づけたと言う。

改築の経緯 大正時代の末期頃、堤防の改修をしたが、詳細については不明。

水利慣行等 不明

逸話伝説 無し

高橋幸茂

069 フナト池

所在地 高松市屋島東町字亀虎780

池の規模 堤長 90メートル
堤高 4. 5メートル
満水面積 0. 11ヘクタール

	貯水量	2. 7 千立方メートル
	かんがい面積	他の三池とともに 0. 5 ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造	
	この地は海岸に近いので、このため池の付近に船の神、船戸神を祀っていたので、フナト池と呼ぶようになった。毎年一回受益者によって、お祭りをしている。	
改築の経緯	大正時代の末期頃、堤防の改修をしたが、詳細については不明。	
水利慣行等	特に無し	
逸話伝説	無し	
	高橋幸茂	

070 ワント池

所在地	高松市屋島東町字亀虎 7 8 1	
池の規模	堤長	2 1 メートル
	堤高	5. 0 メートル
	満水面積	0. 0 6 ヘクタール
	貯水量	1. 6 千立方メートル
	かんがい面積	無し
築造の由来	江戸時代築造	
	ため池の名の由来は不明。雨が降っても水は溜らないと言う。	
改築の経緯	不明	
水利慣行等	不明	
逸話伝説	不明	
	高橋幸茂	

071 牛池

備考	このため池どこにあるか知らないと言う。
	山田定弘

072 オカメ池

所在地	高松市屋島東町字亀虎 7 8 5	
池の規模	堤長	5 5 メートル
	堤高	4. 0 メートル

満水面積 0. 1 7ヘクタール
貯水量 3. 7千立方メートル
かんがい面積 約0. 5ヘクタール

築造の由来 江戸時代築造

池名の由来は逸話伝説を参照。

改築の経緯 底の泥さらいくらいで大改修は無し。

水利慣行等 無し

逸話伝説 昔々、気立ての良いオカネさんが近くの農家に嫁入ってきた。初めは何事もなく平和な日々をすごしていたが、子供が生まれた頃から世間によくある姑の嫁いびりが始まった。そのいびり方は尋常一様でなく、朝な夕な毎日のことであつたので、とうとう辛抱ができなくなったオカネさんは世をはかなんで、幼な子とともにこのため池に入水して旅立ってしまった。こんなことがあってから若嫁の死を悼んで、誰言うことなく村人はこのため池をオカネ池と呼ぶようになった。それからかなりの年月を経て、何時の間にかオカネが訛ってオカメ池と呼ぶようになったと言う。
高橋幸茂

0 7 3 綿打下池（通称 おび池）

所在地 高松市屋島東町字亀虎 7 8 6

池の規模 堤長 3 3メートル
堤高 5. 0メートル
満水面積 0. 0 6ヘクタール
貯水量 1. 6千立方メートル
かんがい面積

築造の由来 江戸時代築造

改築の経緯 平成3年度堤防内法改修 機械ゆるぬき止弁設置。

水利慣行等 不明

逸話伝説 無し

山田定弘

0 7 4 綿打上池

所在地 高松市屋島東町字亀虎 7 8 7

池の規模 堤長 1 9メートル

	堤高	5. 5メートル
	満水面積	0. 1 1ヘクタール
	貯水量	3. 3千立方メートル
	かんがい面積	
築造の由来	江戸時代築造	
改築の経緯	無し	
水利慣行等	不明	
逸話伝説	無し	
	山田定弘	

075 マキツカ池

所在地	高松市屋島東町字檀ノ浦816	
池の規模	堤長	26メートル
	堤高	3. 0メートル
	満水面積	0. 02ヘクタール
	貯水量	0. 3千立方メートル
	かんがい面積	約0. 2ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造 木村家の私有池であるが、榎塚家の前にあるからマキツカ池となづけた と言う。	
改築の経緯	不明	
水利慣行等	無し	
逸話伝説	無し	
	高橋幸茂	

076 フジノ池

備考 ため池無し。電話にて確認。
天野 忠

077 クソ池

所在地 高松市屋島東町字檀ノ浦825

池の規模 堤長 35メートル
堤高 3.5メートル
満水面積 0.04ヘクタール
貯水量 0.7千立方メートル
かんがい面積 0.5ヘクタール

築造の由来 江戸時代築造
昔は池名は無かったが、この付近の人達が何時もこのため池で、子供のおむつや糞タンゴを洗っていたので大正時代にクソ池と名づけた。
昭和時代の中期頃までおむつは洗っていたと言う。

改築の経緯 昭和時代に、池の内壁のコンクリート工事をしたが、詳細は不明。

水利慣行等 不明

逸話伝説 無し
高橋幸茂

078 キムラ池（石池下池）

所在地 高松市屋島東町字檀ノ浦826

池の規模 堤長 35メートル
堤高 3.0メートル
満水面積 0.04ヘクタール
貯水量 0.6千立方メートル
かんがい面積 0.3ヘクタール

築造の由来 江戸時代築造

改築の経緯 無し

水利慣行等 無し

逸話伝説 昔々、この辺りに寺子屋があって、子供達が寺子屋から帰りにこのため池で、筆や硯を洗っていた。ある日一人の子供があやまって転落して水死した。これを哀んだ人達がこのため池の北西隅に地藏菩薩石

像を建立して供養した。その後、このため池を誰言うことなく「お地藏さん」池（オッゾサンイケ）と言うようになったと言う。この地藏菩薩石像は何時の頃か移転してなくなっているが、台座はそのまま残っている。

高橋幸茂

079 タニヤ池

所在地	高松市屋島東町字檀ノ浦827
池の規模	堤長 51メートル
	堤高 4.0メートル
	満水面積 0.05ヘクタール
	貯水量 0.7千立方メートル
	かんがい面積 0.1ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造。初め谷屋家の所有であったから、タニヤ池と言うようになった。
改築の経緯	昭和初年頃漏水のため堤防を改修したが、詳細は不明。
水利慣行等	無し
逸話伝説	不明
	高橋幸茂

080 石池（石池上池）

所在地	高松市屋島東町字檀ノ浦829
池の規模	堤長 48メートル
	堤高 3.2メートル
	満水面積 0.09ヘクタール
	貯水量 1.7千立方メートル
	かんがい面積 0.6ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造
改築の経緯	平成5年東側の堤防の漏水により改修工事をする。
水利慣行等	無し
逸話伝説	無し
	木村トシ子

081 ツムラ池

所在地	高松市屋島東町字檀ノ浦830-1	
池の規模	堤長	42メートル
	堤高	3.5メートル
	満水面積	0.04ヘクタール
	貯水量	0.7千立方メートル
	かんがい面積	無し
築造の由来	江戸時代築造	
改築の経緯	不明	
水利慣行	不明	
逸話伝説	不明	
備考	耕作する田畑無し	
	高橋幸茂	

082 金子池

所在地	高松市屋島東町字檀ノ浦841	
池の規模	堤長	43メートル
	堤高	4メートル
	満水面積	0.09ヘクタール
	貯水量	1.9千立方メートル
	かんがい面積	無し
築造の由来	江戸時代築造	
改築の由来	不明	
水利慣行等	不明	
逸話伝説	不明	
備考	ため池の周囲は柑橘園で田畑なし。園のかんがい用水は水道。	
	金子正明	

083 檀ノ浦池

所在地	高松市屋島東町字檀ノ浦843	
池の規模	堤長	31メートル
	堤高	3.6メートル
	満水面積	0.10ヘクタール

	貯水量	1. 9千立方メートル
	かんがい面積	0. 5ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造	
改築の経緯	平成3年に堤防の大改修をした。	
水利慣行等	無し	
逸話伝説	明治時代、榎塚光男の祖父虎吉が、この池で牛に水浴びさせていたところ、誤って牛とともに入水死亡した。そのためため池の南東隅に、高さ約150センチメートルの後背舟型不動明王石像を建立して供養した。不動明王像の左側に虎吉の文字が見えるが、他の文字は判読できず。 榎塚秀子	

084 浜岡池

所在地	高松市屋島東町字無量寿1020-2	
池の規模	堤長	30メートル
	堤高	1. 5メートル
	満水面積	0. 02ヘクタール
	貯水量	0. 1千立方メートル
	かんがい面積	0. 04ヘクタール
築造の由来	大正時代築造。大正時代に先の管理者浜岡清の父が、原田家より0. 05ヘクタールの田畑を購入したが、モロジ池よりの取り水が日照りの年には不足することを知って、0. 05ヘクタールの内0. 01ヘクタールをため池としたもの。このことからこのため池を通称用心池と呼んでいる。したがって、未だ改築したことはなく、水利取行、紛争、逸話伝説は無い。 浜岡ヨシエ	

085 モロジ池

所在地	高松市屋島東町字無量寿1023	
池の規模	堤長	69メートル
	堤高	4. 5メートル
	満水面積	0. 27ヘクタール
	貯水量	6. 6千立方メートル
	かんがい面積	0. 6ヘクタール

改築の由来	江戸時代築造
改築の経緯	無し
水利慣行	慣行があったことを聞いたが失念した。
水利紛争	昔は紛争が絶えなかったので水番がついていたが、詳細は分からない。
逸話伝説	無し
	徳住サエ子

086 池田池

所在地	高松市屋島東町字大久保1038
池の規模	堤長 30メートル
	堤高 4.5メートル
	満水面積 0.08ヘクタール
	貯水量 1.9千立方メートル
	かんがい面積 0.35ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造
改築の経緯	無し
水利慣行等	無し
逸話伝説	無し
	池田実結

087 長池

所在地	高松市屋島東町字大久保1041
池の規模	堤長 59メートル
	堤高 4.0メートル
	満水面積 0.11ヘクタール
	貯水量 2.4千立方メートル
	かんがい面積 不明
築造の由来	江戸時代築造
改築の経緯	不明
水利慣行等	無し
逸話伝説	昔、このため池で入水した人があったので、高さ約1メートルの後背舟型不動明王石像を東北隅に建立して供養した。不動明王像の左右に文字を刻してあるが、摩滅甚だしく判読できず。

088 開 池

所在地	高松市屋島東町字大久保1044	
池の規模	堤長	46メートル
	堤高	4.5メートル
	満水面積	0.15ヘクタール
	貯水量	3.7千立方メートル
	かんがい面積	0.4ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造	
改築の経緯	特に大改修等無し	
水利慣行	昔はあったと思うが現在は無し。	
水利紛争	不明	
逸話伝説	無し	
	中	清

089 新池

所在地	高松市屋島東町字明神1055	
池の規模	堤長	69メートル
	堤高	5.2メートル
	満水面積	0.29ヘクタール
	貯水量	8.2千立方メートル
	かんがい面積	上鴨池・下鴨池・新池とともに1.8ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造	
改築の経緯	昭和28年頃、前づきをしたことがある。	
水利慣行	特に無し	
水利紛争	この付近の田畑は、全部高松町原田家の所有であったから紛争は無し。	
逸話伝説	無し	
	岡	幸雄

090 上鴨池

所在地	高松市屋島東町字明神 1 0 6 0
池の規模	堤長 5 6 メートル
	堤高 4 . 0 メートル
	満水面積 0 . 2 3 ヘクタール
	貯水量 5 . 0 千立方メートル
	かんがい面積 上鴨池・下鴨池・新池とともに 1 . 8 ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造 昔、この辺りに鴨池家が住んでいたもので、上鴨池と言う。その後、鴨池家は岡山県津山市に移住、醤油会社を起こしたが倒産した。
改築の経緯	不明
水利慣行	開池より、上鴨池及び下鴨池へ七分の取り水の権利があった。
水利紛争	この付近の田畑は、全部高松町原田家の所有であったから紛争は無し。
逸話伝説	無し 岡 幸雄

091 明神上池（通称・明神小池）

備考	平成 6 年から 7 年にかけての明神池改築の時、埋め立ててため池無し。 加木元正
----	--

092 明神池

所在地	高松市屋島東町字明神 1 0 7 5
池の規模	堤長 3 5 メートル
	堤高 3 . 2 メートル
	満水面積 0 . 1 0 ヘクタール
	貯水量 0 . 2 千立方メートル
	かんがい面積 0 . 4 ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造
改築の経緯	平成 6 年から 7 年にかけて全面的に大改修した。
水利慣行等	無し
逸話伝説	無し 加木元正

093 下鴨池

所在地	高松市屋島東町字明神 1 0 7 9
池の規模	堤長 6 0 メートル
	堤高 4 . 0 メートル
	満水面積 0 . 2 4 ヘクタール

	貯水量	5. 2 千立方メートル
	かんがい面積	上鴨池・新池とともに1. 8 ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造	
	昔、この辺りに鴨池家が住んでいたもので、下鴨池と言う。	
改築の経緯	昭和22年頃に前づきをしたことがある。	
水利慣行	開池より上鴨池及び下鴨池へ七分の取り水の権利があった。	
水利紛争	この辺りの田畑は、全部高松町原田家の所有であったから紛争は無し。	
逸話伝説	無し	
	岡 幸雄	

094 宅見池

所在地	高松市屋島東町字明神
池の規模	堤長 7.4 メートル
	堤高 2.7 メートル
	満水面積 0.13 ヘクタール
	貯水量 1.9 千立方メートル
	かんがい面積 0.32 ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造
	このため池は相引川の東の河口に近かったためか、昔、満月の夜、蛸が海から上がってきて、付近の畑のナスビを食べていたので、タコミ池とよばれていた時期があると言う。
改築の経緯	昭和53年頃の台風により堤防が損傷したので、東側及び北側の堤防を改修したが、記録が無いので詳細不明。
水利慣行等	不明
実話	
1	昔、臍の緒がついたままの赤ん坊が投げ込まれて水死したことがある。
2	昔、大人の女性が投身自殺したことがある。
3	昔、四国八ヶ所を巡礼する遍路が、このため池の辺りで行き倒れとなった。業病を直そうとしての巡礼であったが、目的を達成することもなくこの地に果てるとは、いかにも哀れであると地域の人達が小さい仏の石像を作り、お堂の中の地藏菩薩の横に建立した。遍路が「私は九州の〇〇房太郎ですが、姓は忘れてください」と、悲しい言葉を残して仏の御元に去っていったこの悲痛な遺言のとおり、村人はこの小さい墓に「房太郎」とのみ刻んで今も誰かが花をたむけている。
4	昭和時代に、近くの68才になる老婆が投身自殺したことがある。この老婆を供養するため、縁者が高さ約50センチメートル位の後背舟型地藏菩薩石像を、池の東北隅に建立している。

伝説

昔々、物凄い台風が四国を襲った時、このため池の北側にある小川に山から土石流が流れてきた。台風が過ぎ去って村人が小川を見ると、上部は約20センチメートル四方、高さは約60センチメートルの石が、土石流とともに2個流れて

きていた。村人は、寿永四年（1185）2月19日、20日の屋島の源平合戦で戦死した武将を悼んで祀られたものであらうと、懇ろに池のほとりにお祀りした。この石は、池の東北隅に地藏菩薩石像が祀られている小さいお堂の右側に、四文字が刻されているが、摩滅して判読できないものが祀られ、左側には「阿開（間）如来」と刻されているものが祀られている。左側のものはアカンニョライと称されて、今も地区の人達のお参りが絶えないと言う。

木村音秋 実話と伝説は木村サカエ

095 木村上池

所在地	高松市屋島東町字新開 1 1 5 0 - 1
池の規模	堤長 3 5 メートル
	堤高 2 . 7 メートル
	満水面積 0 . 0 4 ヘクタール
	貯水量 0 . 5 千立方メートル
	かんがい面積 宅見池と併せて約 0 . 5 ヘクタール
築造の由来	宅見池の補助池として、江戸時代に築造。
改築の経緯	無し
水利慣行	昔、線香で水の配分をしていたと聞いたことがあるが、その方法は不明。現在は無い。
水利紛争	昔、紛争があったと聞いたが詳細は不明。
逸話伝説	無し
	日下 茂

096 木村下池

所在地	高松市屋島東町字藤目 1 1 8 6
池の規模	堤長 2 5 メートル
	堤高 1 . 7 メートル
	満水面積 0 . 1 5 ヘクタール
	貯水量 1 . 4 千立方メートル
	かんがい面積 約 0 . 0 7 ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造
	昔からこのため池は、蓮が沢山はえていたので、村人は蓮池と呼んでいた。
改築の経緯	平成 6 年頃堤防の改修工事をしたが、詳細はわからない。新道山の手線造成の時、及び下水道管理設工事の時残土で埋め立て、昔の半分になっていると言う。
水利慣行等	無し
逸話伝説	無し
備考	このため池は、相当昔から池一面に蓮がはえてその蓮根は柔らかく、その美味しさは栗に例えられるくらいで、時期がくれば村人がこぞって楽しんでいたが、何時の頃からかバツタリとは

えなくなっていた。これが約30年くらい前から突然はえてきた。蓮は千年も土に埋もれていても再び芽を出すものだとは聞いているが、何とも不思議なことであると池の所有者は言う。
木村 勝

097 法泉池

所在地	高松市屋島東町字平尾1280
池の規模	堤長 70メートル
	堤高 4.0メートル
	満水面積 0.24ヘクタール
	貯水量 5.2千立方メートル
	かんがい面積 平木池と併せて約0.8ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造 池名は、昔この辺りに法泉寺と言う寺があったので、法泉池と言うようになったとの言い伝えがあるが、寺跡はわからない。
改築の経緯	ため池の内壁のブロック工事をしたが、その年等詳細は不明。
水利慣行等	無し
逸話伝説	無し 平木一二三

098 平木池

所在地	高松市屋島東町字平尾1281
池の規模	堤長 23メートル
	堤高 3.0メートル
	満水面積 0.04ヘクタール
	貯水量 0.6千立方メートル
	かんがい面積 法泉池と併せて約0.8ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造
改築の経緯	内壁のコンクリート工事をしたが、改築年等詳細不明。
水利慣行等	無し
逸話伝説	無し 平木一二三

099 簗池

所在地	高松市屋島東町字平尾1284
池の規模	堤長 51メートル
	堤高 3.7メートル
	満水面積 0.10ヘクタール
	貯水量 2.0千立方メートル
	かんがい面積 0.15ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造
改築の経緯	新道山の手線造成の時、堤防のすそを石垣に、上部はコンクリ

	ート工事実施。
水利慣行	慣行は昔あったと聞いたが今は無く、畑が少ないので、必要な時皆が勝手に使用している。
逸話伝説	ため池の堤防上に地蔵菩薩石像があるが、その由緒は知らない。 掛平国明

1 0 0 不動下池

備考	埋め立てて、桃地となっている。 木村美都子
----	--------------------------

1 0 1 聖代上池

所在地	高松市屋島東町字各下 1 3 3 2 - 1
備考	埋め立ててため池無し 山口恭弘

1 0 2 聖代下池

所在地	高松市屋島東町字各下 1 3 3 3
備考	受益者無し。 山口恭弘

1 0 3 吉木池

所在地	高松市屋島東町字各下 1 3 4 3	
池の規模	堤長	3 1 メートル
	堤高	3 . 0 メートル
	満水面積	0 . 0 7 ヘクタール
	貯水量	1 . 1 千立方メートル
	かんがい面積	無し
築造の由来	江戸時代築造	
改築の経緯	不明	
水利慣行等	不明	
逸話伝説	無し	
備考	現在の管理者になってより田畑の耕作をしていない。 大西キヨエ	

1 0 4 大西池

所在地	高松市屋島東町字各下 1 3 5 1	
池の規模	堤長	2 8 メートル
	堤高	3 . 0 メートル
	満水面積	0 . 0 4 ヘクタール
	貯水量	0 . 6 千立方メートル
	かんがい面積	0 . 1 2 ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造	

改築の経緯	無し
水利慣行等	無し
逸話伝説	無し
	大西頼久

105 岡池

所在地	高松市屋島東町字各下1356
池の規模	堤長 20メートル
	堤高 3.0メートル
	満水面積 0.08ヘクタール
	貯水量 1.3千立方メートル
	かんがい面積 約0.05ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造
改築の経緯	不明
水利慣行等	無し
逸話伝説	無し
備考	ため池の周囲は放置状態で雑木笹竹が密生して、その全貌見えず。 大西頼久

106 藤本池

所在地	高松市屋島東町字各下1362-1
池の規模	堤長 48メートル
	堤高 3.0メートル
	満水面積 0.09ヘクタール
	貯水量 1.4千立方メートル
	かんがい面積 0.1ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造
改築の経緯	不明
水利慣行等	昔はあったと聞いたが、今は無い。
逸話伝説	無し
備考	殆ど放置状態で、雑木笹竹が密生し池の全貌見えず。 大西頼久

107 長池

所在地	高松市屋島東町字西藤目1369-1
池の規模	堤長 64メートル
	堤高 3.2メートル
	満水面積 0.18ヘクタール
	貯水量 3.1千立方メートル
	かんがい面積 0.8ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造

改築の経緯	平成8年、底泥さらいと堤防の前づき工事を実施。
水利慣行等	不明
逸話伝説	無し
	大西頼久

108 木村池

所在地	高松市屋島東町字西藤目1395
池の規模	堤長 20メートル
	堤高 3.0メートル
	満水面積 0.04ヘクタール
	貯水量 0.6千立方メートル
	かんがい面積 0.2ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造
改築の経緯	無し
水利慣行等	無し
逸話伝説	無し
備考	ため池はあるが、長期間耕作していない。 木村 昇

109 屋島池（通称 藤田池）

所在地	高松市屋島東町字池尻 1 4 3 7	
池の規模	堤長	1 5 0 メートル
	堤高	3. 5 メートル
	満水面積	0. 3 7 ヘクタール
	貯水量	7. 1 千立方メートル
	かんがい面積	0. 5 ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造	
改築の経緯	昭和 1 5 年頃ため池拡張工事	
水利慣行等	昔はあったと聞いたが詳細不明。	
逸話伝説	無し	
	木村 昇	

110 湯元池

所在地	高松市屋島東町字赤牛崎 1 4 6 5	
池の規模	堤長	6 7 メートル
	堤高	3. 0 メートル
	満水面積	0. 2 4 ヘクタール
	貯水量	3. 9 千立方メートル
	かんがい面積	0. 3 ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造	
改築の経緯	無し	
水利慣行等	昔あったが現在は無し。	
実話		

このため池の下に、一人住まいの浜岡のお婆さんが住んでいた。昭和 1 5 年のある冬の夜更けに、家の前から女の親子らしい二人の声が聞こえる。

「お母さんと、一緒に死んで・・・」

「お母さん、はや死ぬことはないんでないんな」

耳をすませて聞いていると、こんな会話が聞こえる。やがて暫くすると、池の方で石を投げ込んだような音が 2 回した。翌朝になって、女の親子の身投げだと地区の人々の慌ただしい声が聞こえる。近くに住む木村サダエ（この話を語ってくれた人）は舅の、「そんなもんは、見るもんでない」と言う言葉を振り切って池へ駆けつけて見ると、死体は既に西の畑に引き上げられ、綿入れの袖無しを掛けられて、横たわってい

た。よく見ると母親らしい人は女の幼子を背負い、並んでその母親の手を握って可愛い女の子が死んでいた。後でわかったことであるが、この女性は引田の人で高級軍人である主人は、この時召集令状により軍隊に入隊していたという。母と手をつないでいた女の子は7才であったという。姑とのおりあいが悪かったからか、どうかはわからないが、その後、夜が更けると、身投げしたような音や、すすり泣きの声が聞こえると、浜岡のお婆さんは早々にこの地を去ってしまったという。この後も地区の人々が、「私も聞いた。私も聞いた」との声が高まったので、舅は友人と語らってこのため池のほとりに、三体の地藏菩薩石像を建立して土砂加持をして供養した。それから後は、バツタリと不思議な音や声はしなくなった。

これより暫くして池の改修をすることになって、請負業者が地藏様が邪魔になると、横の方に建てて作業をしていると、人夫の一人が堤防の木を切っていると突然倒れてその枝が人夫の頭に突き刺さり死亡した。これは何かの祟りだと、すぐ地藏様を元の位置に建てて工事を終えたと言う。今、東の堤防の北よりの所に、三体の地藏菩薩石像が立っている。

木村 昇・木村サダエ

1 1 1 山田池（通称 藤本池）

所在地	高松市屋島東町字赤牛崎 1 4 7 1		
池の規模	堤長	2 0 メートル	
	堤高	2 . 0 メートル	
	満水面積	0 . 0 0 8 ヘクタール	
	貯水量	0 . 1 千立方メートル	
	かんがい面積	0 . 3 ヘクタール	
築造の由来	江戸時代築造		
改築の経緯	無し		
水利慣行等	昔あったが現在は無し。		
逸話伝説	無し		
	木村 昇		

1 1 2 藤本上池

所在地	高松市屋島東町字池尻 1 4 7 5		
池の規模	堤長	6 4 メートル	
	堤高	4 メートル	

	満水面積	0. 1 2 ヘクタール
	貯水量	2. 6 千立方メートル
	かんがい面積	0. 1 ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造	
水利慣行等	現在は無し	
逸話伝説	無し	
備考	放置状態、ため池の全貌は見えず。 大西頼久	

1 1 3 和田池

備考	田畑は無し。 木村 昇
----	----------------

1 1 4 木村池（通称 アシメ池）

所在地	高松市屋島東町字池尻 1 4 9 9	
池の規模	堤長	2 8 メートル
	堤高	4. 0 メートル
	満水面積	0. 0 8 ヘクタール
	貯水量	1. 7 千立方メートル
	かんがい面積	約 0. 2 ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造 通称アシメ池と言うのは、屋島で源平合戦が行われた時、源氏の軍がこのため池の辺りを通して、檀の浦の平家の陣屋に攻め込んだ時、足跡を残したことからこの池名がついたらしい。	
改築の経緯	無し	
水利慣行等	無し	
逸話伝説		

寿永四年（1 1 8 5）2 月 1 0 日、源義経は軍船糧食を整えて京都を出発し、阿波の勝浦に上陸し屋島の平家を攻撃すべく西へ西へと進軍した。讃岐の国に入ってから道は旧駅路を選び、馬宿から丹生に出て田面峠を越えて一直線に進み、屋島を目前にして古高松の鞍掛け松の辺りで小休止した。この時、古高松の百姓が飼っている赤牛が海を渡って屋島へ行くことを知り、屋島の平家の陣屋を急襲すべく後藤兵衛父子ら 3 0 騎に渡海を命じた。承った 3 0 余騎は夜中に赤牛の角に松明を縛りつけ、屋島の

波打ち際にたどりついた。この場所は、旧浄土真宗説教所（現在は無い）の辺りであったという。当時のこの辺りは山の際まで潮が押し寄せてきていて、枯木山が迫っていて登るに急峻な所であるが、源家の将士はこれを駆け上がり、アシメ池のほとりを駆け抜けて、檀の浦の平家の陣屋になだれ込んで行った。（この頃のアシメ池は、池と言うより水溜まり位のものであったと言う）

平木一二三

1 1 5 浜岡池

備考 管理者浜岡萬吉は、子息と同居のため大阪へ移転し、ため池は放置状態である。
平田謙三郎

1 1 6 円応池

所在地 高松市屋島東町字池ノ内 1 7 3 9 - 1
池の規模 堤長 1 8 メートル
堤高 1 . 8 メートル
満水面積 0 . 0 2 ヘクタール
貯水量 0 . 3 千立方メートル
かんがい面積 無し
築造の由来等 全く不明
教会主

1 1 7 下池

所在地 高松市屋島東町字池ノ内 1 7 5 0
池の規模 堤長 1 1 0 メートル
堤高 8 . 0 メートル
満水面積 0 . 4 0 ヘクタール
貯水量 1 7 . 0 千立方メートル
かんがい面積 上池と併せて約 1 ヘクタール
築造の由来 江戸時代築造
改築の経緯 約 7 0 年前に泥出しをしたが、その他は不明。
逸話伝説 不明
明石栄一

1 1 8 上池

所在地	高松市屋島東町字池ノ内 1 7 5 3	
池の規模	堤長	8 3 メートル
	堤高	3. 0 メートル
	満水面積	0. 2 3 ヘクタール
	貯水量	3. 7 千立方メートル
	かんがい面積	下池と併せて約 1 ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造	
改築の経緯	約 7 0 年前に泥出しをしたが、その他は不明。	
水利慣行等	不明	
逸話伝説	不明	
	明石栄一	

1 1 9 明石池

所在地	高松市屋島東町字池ノ内 1 7 6 6	
池の規模	堤長	2 8 メートル
	堤高	2. 0 メートル
	満水面積	0. 0 4 ヘクタール
	貯水量	0. 4 千立方メートル
	かんがい面積	無し。
築造の由来	江戸時代築造	
改築の経緯	無し	
水利慣行等	無し	
逸話伝説	無し	
	明石栄一	

1 2 0 松岡池

所在地	高松市屋島東町字池ノ内 1 7 7 8	
池の規模	堤長	2 3 メートル
	堤高	3. 0 メートル
	満水面積	0. 0 7 ヘクタール
	貯水量	1. 1 千立方メートル
	かんがい面積	無し

築造の由来	江戸時代築造
水利慣行等	無し
逸話伝説	無し
備考	所有権は松岡繁太郎から清水富雄に移転済み。田畑無し。 松岡道子・清水富雄

番外 友市池

所在地	高松市屋島東町２９０ 藤岡保夫の家より南東側
築造の由来	大正年間、藤岡保夫の父藤岡友市が、日照りの時用水不足を解消するため所有の田圃に用心池として築造した池。 池名は、ため池調査の時藤岡保夫が命名した。 藤岡保夫

高松市屋島仲池土地改良区管内

1 2 1 瑠璃宝池（通称 血ノ池）

所在地	高松市屋島東町字屋島 1 8 1 2		
池の規模	堤長	3 5 メートル	
	堤高	2. 5 メートル	
	満水面積	0. 1 5 ヘクタール	
	貯水量	2. 0 千立方メートル	
	かんがい面積	無し	
築造の由来	平安時代築造		
	嵯峨天皇弘仁元年（8 1 0）庚寅二月、弘法大師が北峰の伽藍を南峰に移して屋島寺を建立した時、『遍照金剛 三密行所 當都率天 當院管門』と書き宝珠とともに納めた周囲を池とした。ところが、龍神が珠を奪いにくると伝えられて、瑠璃宝池と呼ばれるようになったと言われている。		
	また、寿永四年（1 1 8 5）の屋島の源平合戦の時、屋島の檀の浦で戦った武将たちが、この池で血刀を洗ったため池の水が赤くなったので、それより血の池と呼ばれるようになったと言う。 （血の池案内板より抜粋）		
改築の経緯 水利慣行等 逸話伝説	また、「源平合戦の時、源氏の勇士の刀を洗いしたため水紅色を呈するなりと言へり。寺記に曰く、伽藍草創の時、宝珠を金堂の前、東南方に埋め、其周囲を池となし、瑠璃宝池と言うとぞ」と、昭和1 5 年1 月5 日発行の木田郡誌にあるので、平成8 年1 0 月屋島寺を訪れ、中井龍照住職に尋ねたところ、寺の古文書には池についての古記録は無いと言う。		
	無し		
	無し		
逸話伝説	築造の由来の通り		

1 2 2 山畑池

所在地	高松市屋島中町字山畑 3 9		
池の規模	堤長	7 0 メートル	
	堤高	3. 0 メートル	
	満水面積	0. 1 6 ヘクタール	

	貯水量	1. 0千立方メートル
	かんがい面積	1. 3ヘクタールの用心池。
築造の由来	明治時代の末頃に築造	
		昔、馬場池より取水していたが、新田開拓が進んで用水の不足をきたすようになったので、山畑池を築造した。
改築の経緯	平成4年頃、ユル故障により底部を埋立てて、常時はゲートボール場として利用し、用水不足が見込まれる時は貯水して用心池の役目を果たすように改修した。	
水利慣行等	昔はあったが現在は無し。	
逸話伝説	昔、このため池の西堤防に「砂かけ狸」が棲んでいて、時々、通行人に砂を投げかけていたという。	
	平田謙三郎	

1 2 3 馬場池

所在地	高松市屋島中町字新馬場 24 7	
池の規模	堤長	6 2 メートル
	堤高	3． 0 メートル
	満水面積	0． 1 3 ヘクタール
	貯水量	2． 1 千立方メートル
	かんがい面積	裏池、新池と併せて、 3． 6 ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造	
	西嶋八兵衛は、讃岐四代目領主である生駒高俊に招かれて、普請奉行を拝命して寛永七年（1 6 3 0）から八年にかけて、香東川の川筋付け替え工事や、高松東部の新田開発のため、遠浅の海の埋立て工事に着手し寛永十四年に完成した。これにより、南は新田町の久米池北側の浪波打ち際から、北は屋島山の南麓まで陸地が造成された。 このため屋島山南麓の住居も住人も増加し、新田開発が盛んに行われるようになったので、これら開発された田畑のかんがいのため用水の確保が必要となり、約 2 5 0 年前の延享年間に仲池・道池（通称 二ツ池 屋島小学校の南）が築造された。 しかし、この後も屋島南麓の東部に向かっての新田開発がすすみ、益々用水の不足をきたすようになったので、これを解消するため、二ツ池の東にため池を築造した。これが馬場池である。 なお、この後も用水の不足が深刻となったので、裏池、新池（三つの	

池を総称して新馬場本掛池と言う)を築造した。

改築の経緯	このため池は、築造されてより200年近く経過しているので、その間、堤防の補修などを繰り返してきたが、近年、堤体の漏水や取水施設などの老朽化が目立ち決壊の危険さえ予想されるに至り、国、県、市へ改修工事を要望してきたところ、平成七年度団体営危険ため池整備事業として採択され、改修工事を実施して平成8年3月完成したものである。工費は4000万円。		
改築後の規模	堤長	66メートル	
	堤高	3.87メートル	
	満水面積	0.1ヘクタール	
	貯水量	1.8千立方メートル	
水利慣行等	太平洋戦争後、農地解放までは、屋島地区内の地主六名屋島地区外の地主二名と、地区外の地主のうち一名の小作人六名がこのため池から取り水していた。水配分係は地主の総意によって指名し、この係は、各人が苗を植付け後、各水田の植付け状況を勘案しながら、水を配分していた。水配分係に対する報酬やため池に関する諸経費は地主が負担していた。		
逸話伝説	昔は屋島には狸が多く棲んでいた。このため池にも人間を化かしたりしない、愉快な狸が棲んでいた。この狸は、闇夜の晩になると大提灯をつけて堤防を歩いていたと言う。これを見たという人がおるので、本当の話であろうと言う。 だいぶ前のことになるが、ある本によれば、狸が自分の大金玉を担いでいるのが、そう見えるのだそうである。狸の金玉八畳敷きと言われているが、本当は半畳くらいであると言う。 谷口辰男・平田謙三郎		

124 谷原池

所在地	高松市屋島中町字休所地741-1		
池の規模	堤長	15メートル	
	堤高	2.0メートル	
	満水面積	0.02ヘクタール	
	貯水量	0.2千立方メートル	
	かんがい面積	耕作水田無し	
築造の由来	江戸時代築造		

改築の経緯 無し
水利慣行等 無し
逸話伝説 無し
谷原竹次妻

1 2 5 道池

1 5 3 仲池

道池（通称 新池） 所在地 高松市屋島中町字休所地 7 5 1

池の規模 堤長 1 1 2 メートル
堤高 3. 2 メートル
満水面積 0. 7 2 ヘクタール
貯水量 1 2. 6 千立方メートル
かんがい面積 8. 0 ヘクタール

仲池（通称 長池） 所在地 高松市屋島西町字浜島 1 2 5 2 の地先

池の規模 堤長 2 6 5 メートル
堤高 4. 5 メートル
満水面積 1. 4 2 ヘクタール
貯水量 3 1. 9 千立方メートル
かんがい面積 2 4. 0 ヘクタール

（註）この二つのため池を総称して、土地の人達は「二つ池」と呼んでいる。

香川県史 1 0 資料編近世史料二に所載の「池泉合符録」の片元村の項に、文政元年（1 8 1 8）に修正まとめたものに、

仲池 水掛高八十四石四斗五升五合

道池 水掛高五十石四斗八升三合

併せて一三四石九斗三升八合とあり、

湧元村字百石は干拓地であったから、日照りの年は塩害は免れなかったのも、取高は上田より少なく平均一段一石とみてかんがい面積は、1 3. 4 9 3 8 ヘクタールでなかっただろうか。

築造の由来

昔々屋島は、屋島の檀の浦で源平の合戦があった寿永四年（1 1 8 5）頃は、周囲を海で囲まれた離島であった。このことは、松平公益会が所蔵の源平合戦の屏風絵を見ても明らかでありまた、宇治原春哲著「久米池構築新川春日川流水変更工事等の考察」によれば、天文十七年（1 5 4 8）頃は、屋島はまだ島で、久米山には海水が打ち寄せていたと言う。したがって、屋島においてもこの二つ池の麓付近まで潮が押し寄せていた

ことは、論をまたないであろう。

このような地勢から、昔は、峻険な山にはりつくように作られた段畑にかんがいするため、溪を利用して小さいため池を造成して農業に従事していた。

寛永年中、藤堂高虎の家臣である西嶋八兵衛が、讃岐生駒藩第四代藩主生駒高俊に招かれて、寛永七年（1630）から同八年にかけて、香東川の川筋付け替えや、高松東部の新田開発に勤め、久米池の北岸から屋島南麓までがほぼ陸地に変貌し、屋島の相引には塩田が造成された。

松平頼重が寛永十九年（1642）讃岐松平藩初代藩主となってから、屋島が昔島であった名残を留めようと生駒公が構築した相引の塩田を廃して、正保四年（1647）から慶安元年（1648）にかけて相引川を構築し、この時屋島の百石の新田造成も完成した。これにより、屋島山南麓の平野部では水田、畑などの新田開発がすすみ、このため、水田への用水が屋島山からの流水だけでは不足するようになったので、享保年間に屋島の中央にため池を築造して、屋島のほぼ中央にあるので「仲池」と命名した。しかし、なお用水の不足をきたすようになったので、仲池の東側の谷間から取り水をして、かんがい用水を確保するとともに農地を水害から守る調整池として仲池の東側に道池を築造した。

このため池を築造の時、昔はこの種の難工事を実施する時は、各地に必ずと言ってよい程人柱伝説が残っているが、屋島ではそれを避けて人柱の代わりに、地蔵菩薩石像を建立したとの言い伝えがあり、現在も道池のほとりに、二体の後背舟型地蔵菩薩石像が建っていることから立証されるであろう。

その一体の享保九年（1724）と刻されているのが、仲池築造の時のものであり、もう一つの享保十一年（1726）と刻されているのが、道池築造の時の石像であると言う。

この地蔵菩薩石像は、初めは長池の北東に建立されていたが、後に、蓮井家の辺りの通称ハサミの木（ネリの木）の下に移動し、3回目は仲池・道池の大改修工事の際現在地に祀られた。

改築の経緯

このため池は、築造以来改築などは、地主や小作人たちが修理をくりかえしてきたが、年を経て、昭和55年に高松市立屋島小学校の運動場拡張工事の時、仲池の2600平方メートルを割愛した。

それより数年を経過して平成時代になって間もなく、さしもの堅固であった仲池・道池も200年余りの年月には抗し難く、最近は日量300立方メートルから500立方メートルくらいの漏水の破目にいたり、かねてから池の改築をと熱望してやまなかった、仲池土地改良区の前理事長山田守廣の意志を継いで、平成5年に谷口辰男理事長が就

任してから精力的に各方面と折衝して、平成の大改築に着工した。

平成4年に仲池の改築に着工、道池は平成5年に着工、いずれも前刃金式工法で、平成7年に完成した。

工費は、仲池2億385万9000円 道池1億147万円。

現在この二つ池は面目を一新し、仲池は、憩いの場に休憩所、あずまや、ベンチ19基、便所、公園灯6基、防護柵331メートル。

道池は、ベンチ5基、防護柵、パーゴラ等が設置され、堤防上は遊歩道としてカラー舗装され、植栽としてはサツキ、ヒラドツツジ、アベリアが植えられている。

改築後の規模	仲池	道池
貯水量	2万1000立方メートル	1万5000立方メートル
堤 高	6.2メートル	5.87メートル
堤 長	269メートル	108メートル
満水面積	8.0ヘクタール	7.0ヘクタール
受益面積	6.7ヘクタール	2.9ヘクタール
関係農家	54戸	17戸

水利慣行

本掛り水系

琴電志度線潟元踏切りから北へ伸び、八坂神社御旅所から分かれて更に北へ向かい、仲池の下を通過して東へ進み、仲池・道池の境界辺りから南下して、長谷川医院の辺りから琴電志度線踏切りまで及びその南の水田は、主として仲池よりの水を用水として割りをする。

大総割り

新川の東の堤防沿いの水路を通る、久米池より通水する琴電志度線潟元踏切りまでの、潟元の農家が利用する用水については、全農家の割りとする。

新端水系

旧国道11号線新川橋の東より南へ、約200メートルの地点に構築の潟元ユルより、新川橋北東の新川出水堀へ送水し、大総割りの用水とともに琴電志度線潟元踏切りまでに送水しこれを割りとする。

西まわり水系

琴電志度線潟元踏切りから、萱端墓地（大橋前墓地）までの水路は、それより西の割りとして、仲池地区西内間を割りとする。

東西水系

琴電志度線潟元踏切りから北東に伸び長谷川病院のあたりまでを東西水系と言い、東

西の水田の割りとする。

道池掛り

本掛り水系より東の水田は、道池用水の割りとする。

本掛り

長谷川医院より仲池下までを本掛り割りとする。

水利紛争

昔から水はかけがえのない大切なものであるが、特に農家にとっては命と言うべきものであったので、その大小にかかわらず水利紛争は絶えなかったと思われるが、仲池・道池を水源とし、久米池から分水していた頃、屋島には次のような記録が残っている。

明治10年、田植えの時期になって、新田村・春日村は屋島の百石新開だけは久米池分水の約束に応じて通水したが、東・西両潟元村の残り150石に対して、新田・春日両村が約束を破って通水を拒否したので、西潟元村の仲池係三谷惣四郎他59名と、東潟元村の道池係宮内周吉他二四名が上告人となり、新田村の谷本早太他160名と、春日村の茶岡伝太郎他46名を被告人として、松山裁判所高松支庁へ告訴した。これが有名な「久米池分水訴訟」である。

明治11年4月27日、松山裁判所高松支庁は、「前略……本掛り、新掛りを問わず人添・荒伏の別なく、同一に配水すべきものとす」と判決した。

この判決を不服として被告人の新田・春日側は、大阪上等裁判所に控訴した。翌12年1月31日、大阪上等裁判所は、「前略……前条の理由なるを以て、本訴被告村内間150石の田面は、原告の申立の如く旧慣に従い、久米池水を以て、足水となすを得るといえども、該水を以て各村同等に灌漑するの権利これ無き者なり」と判決した。

今度は被告の新田・春日側に有利な判決になった。両潟元村側はこの判決を不服とし、更に東京上等裁判所に移して裁判を受けることになった。

そこで、明治12年11月12日、大阪上等裁判所は、「前条の理由なるを以て、大阪裁判所が為したる予審および本案の裁判の破毀し、更に東京上等裁判所に移すに因り、其の裁判を受くべきものなり。但し、上告に係る訴訟入費は、被上告人より上告人に償却すべし」と指示した。

この訴訟については、最後の『東京上等裁判所の記録』が見当たらないが、これについて古老は、「両者の間に和解が成立して訴訟を取り下げた」と伝えている。

(香川県史第一編第六章県政時代の内『久米池分水訴訟記録』より)

仲池伝説

雨乞い伝説。昔は、日照りが続き水不足が深刻になった時、何処の地区でも雨乞いをしたものであるが、屋島にも古老によりこの記録が残されている。

屋島における俗に「大火を焚く」と言われて、古来旱魃に際して降雨を祈祷して雨乞いした場所は、屋島山南峰の南西の龍王社と、南峰経塚付近及び仲池の堤防上であつたと言われている。この三つの場所はいずれも、金刀比羅宮から御神火を火縄に拝受して持ち帰り、点火して大火を焚いた。

仲池では、南堤防上に108個の穴を掘り、割り木松葉を入れて御神火で点火して祈祷したと言う。

その効果については記録に無いのでわからない。

道池伝説

昔々、道池のほとりに若い大工の夫婦がやってきて住みついた。大工は働き者でその妻は絶世の美人であつたので、村の若い衆は、いつかこの絶世の美人の若妻を抱きたいと誰もが思っていた。ある日、大工が仕事に出かけたのを見すまして、何人もの若者がかわるがわる妻を姦した。これを悲しんだ若妻は道池に身投げして、西方浄土に旅立って行った。このことがあってからは、大工は仕事も手につかず毎日嘆き悲しんでいたが、ある日妻の後を追って、道池の土手の松で首吊り自殺をしてしまった。これを哀れと思った村の人達は墓を作って、大工夫婦の霊を供養したという。

自然石に「大工の墓」とのみ刻された墓は、今も道池の南堤防上に、人柱伝説の二体の地藏菩薩石像と並んで祀られている。

参考図書 全讃史

香川県史

木太郡誌

久米池構築新川春日流水変更工事等の考察の内春日村史年表

讃岐人物風景

谷口辰男

126 下河池

所在地 高松市屋島中町字尾上834

池の規模 堤長 15メートル

堤高 5.5メートル

満水面積 0.01ヘクタール

貯水量 0.19千立方メートル

かんがい面積 1.0ヘクタール

築造の由来 江戸時代築造。

改築の経緯 昭和40年代に漏水のため改築。

水利慣行等 無し。

逸話伝説 無し。
下河重信

1 2 7 川六池

所在地 高松市屋島西町字長崎 2 9 1 甲

池の規模 堤長 1 5 メートル
堤高 2 . 5 メートル
満水面積 0 . 0 6 ヘクタール
貯水量 1 . 0 千立方メートル
かんがい面積 無し

備考 ため池の底より一面に笹竹が密生し、田畑は無し。
丸山 豊・大前 等

1 2 8 佐々木池

所在地 高松市屋島西町字長崎乙

池の規模 堤長 1 5 メートル
堤高 2 . 0 メートル
満水面積 0 . 0 8 ヘクタール
貯水量 1 . 0 千立方メートル
かんがい面積 無し。

備考 田畑は無し。佐々木平次郎前管理者の孫佐々木義治（8 2 才）は、ため池のあることを知らず。
佐々木義治

1 2 9 上村池

備考 埋め立てて池無く宅地となり、既に家が建てられている。
高松ヨシエ

1 3 0 太田池

所在地 高松市屋島西町字浦生45
池の規模 堤長 35メートル
堤高 4.2メートル
満水面積 0.13ヘクタール
貯水量 3.0千立方メートル
かんがい面積 無し
築造の由来、改築の経緯、水利慣行、逸話伝説など無し
大前 等

1 3 1 吉川池

所在地 高松市屋島西町字浦生2125-1
池の規模 堤長 32メートル
堤高 3.0メートル
満水面積 0.04ヘクタール
貯水量 0.6千立方メートル
かんがい面積 無し
築造の由来 江戸時代築造
改築の経緯 不明
水利慣行等 無し
逸話伝説 無し
吉川百合子

1 3 2 千原池

備考 先年の台風で堤防が決壊し、この時埋立てたため池無し。
千原利広

1 3 3 松尾一号池

1 3 4 松尾二号池

備考 埋立てため池無し。
大前 等

1 3 5 協和池

所在地 高松市屋島西町字丸山 3 7 8
池の規模 堤長 8 9 メートル
堤高 4 . 5 メートル
満水面積 0 . 3 1 ヘクタール
貯水量 7 . 6 千立方メートル
かんがい面積 無し
築造の由来 江戸時代築造
改築の経緯 不明
水利慣行等 不明
逸話伝説 無し
備考 元来、株式会社協和化学の工業用水として利用していたが、現在は殆ど使用していない。
加藤利幸

1 3 6 植田池

所在地 高松市屋島西町字丸山 4 0 2
池の規模 堤長 2 4 メートル
堤高 3 . 0 メートル
満水面積 0 . 2 2 ヘクタール
貯水量 0 . 3 千立方メートル
かんがい面積 0 . 1 ヘクタール
築造の由来 江戸時代築造
改築の経緯 不明
水利慣行等 無し
逸話伝説 無し
大前 等

137 加藤池

所在地	高松市屋島西町字丸山406-1	
池の規模	堤長	22メートル
	堤高	3.5メートル
	満水面積	0.02ヘクタール
	貯水量	0.4千立方メートル
	かんがい面積	0.15ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造	
改築の経緯	昭和4年頃、ため池拡張工事を実施する。	
水利慣行等	無し	
逸話伝説	無し	
	加藤利幸	

138 田中上池

所在地	高松市屋島西町字丸山516	
池の規模	堤長	17メートル
	堤高	2.7メートル
	満水面積	0.04ヘクタール
	貯水量	0.6千立方メートル
	かんがい面積	田中下池と併せて0.2ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造	
改築の経緯	不明	
水利慣行等	不明	
逸話伝説	無し	
	大前 等	

139 田中下池

所在地	高松市屋島西町字丸山581-2	
池の規模	堤長	28メートル
	堤高	2.5メートル
	満水面積	0.01ヘクタール
	貯水量	0.1千立方メートル
	かんがい面積	田中上池と併せて0.2ヘクタール

築造の由来	江戸時代築造
改築の経緯	不明
水利慣行等	不明
逸話伝説	無し
	大前 等

1 4 0 小判屋池

所在地	高松市屋島西町字丸山 5 9 6
池の規模	堤長 6 7 メートル
	堤高 4 . 5 メートル
	満水面積 0 . 2 5 ヘクタール
	貯水量 6 . 2 千立方メートル
	かんがい面積 無し
築造の由来	江戸時代築造 仲池土地改良区前理事長山田守廣作成の「ため池現況届」（作成年月日不明）によれば、約 2 0 0 年前に築造と記録している。
改築の経緯	不明
水利慣行等	無し
逸話伝説	無し
備考	昔は、多くの鴨が飛来してきていたそうであるが、田畑が無くため池は荒廃している。 柏原 功

1 4 1 小泉池

所在地	高松市屋島西町字飛石 6 2 5
池の規模	堤長 4 2 メートル
	堤高 3 . 5 メートル
	満水面積 0 . 0 8 ヘクタール
	貯水量 1 . 5 千立方メートル
	かんがい面積 無し
築造の由来	江戸時代築造
改築の経緯	不明
水利慣行等	不明

逸話伝説	無し
備考	田畑無し 久保行唯

1 4 2 小判屋池

所在地	高松市屋島西町字飛石 6 4 1
池の規模	堤長 5 6 メートル 堤高 3 . 5 メートル 満水面積 0 . 1 4 ヘクタール 貯水量 2 . 7 千立方メートル かんがい面積 無し
築造の由来	江戸時代築造
改築の経緯	不明
水利慣行等	無し
逸話伝説	無し
備考	田畑無く、笹竹が密生し全貌見えず。 柏原 功

1 4 3 柏原池

所在地	高松市屋島西町字飛石 6 4 4
池の規模	堤長 1 1 メートル 堤高 2 . 0 メートル 満水面積 0 . 0 1 ヘクタール 貯水量 0 . 1 千立方メートル かんがい面積 無し
築造の由来	江戸時代築造
改築の経緯	不明
水利慣行等	無し
逸話伝説	無し
備考	田畑無く、山化して入れず。 柏原 功

1 4 4 久保久池

所在地	高松市屋島西町字飛石 6 4 5 - 1	
池の規模	堤長	1 2 メートル
	堤高	2. 0 メートル
	満水面積	0. 0 1 ヘクタール
	貯水量	0. 1 千立方メートル
	かんがい面積	無し
築造の由来	江戸時代築造	
改築の経緯	無し	
水利慣行等	無し	
逸話伝説	無し	
備考	田畑無く、笹竹が密生したため池の全貌見えず。 久保行唯	

1 4 5 柏原下池

所在地	高松市屋島西町字飛石 6 4 5 - 2	
池の規模	堤長	5 メートル
	堤高	2. 0 メートル
	満水面積	0. 0 1 ヘクタール
	貯水量	0. 1 千立方メートル
	かんがい面積	無し
築造の由来	江戸時代築造	
改築の経緯	不明	
水利慣行等	無し	
逸話伝説	無し	
備考	田畑無く、笹竹が密生したため池に近寄れず。 柏原 功	

1 4 6 小泉池（通称 仲間池）

所在地	高松市屋島西町字飛石 6 5 6 - 1	
池の規模	堤長	4 3 メートル
	堤高	2. 7 メートル
	満水面積	0. 0 4 ヘクタール

	貯水量	0.6千立方メートル
	かんがい面積	無し
築造の由来	江戸時代築造	
改築の経緯	昭和62年の台風で堤防が決壊し改修。工費6000万円。	
水利慣行等	不明	
逸話伝説	無し	
備考	田畑なく、山化している。	
	久保行唯	

147 久保松池

所在地	高松市屋島西町字飛石659	
池の規模	堤長	46メートル
	堤高	3.7メートル
	満水面積	0.06ヘクタール
	貯水量	1.2千立方メートル
	かんがい面積	無し
築造の由来	江戸時代築造	
改築の経緯	不明	
水利慣行等	無し	
逸話伝説	無し	
	久保行唯	

148 青木池

所在地	高松市屋島西町字飛石689-1	
池の規模	堤長	79メートル
	堤高	5.5メートル
	満水面積	0.13ヘクタール
	貯水量	3.9千立方メートル
	かんがい面積	無し
築造の由来	江戸時代築造	
改築の経緯	不明	
水利慣行等	不明	
逸話伝説	無し	

備考 田畑無く放置状態、埋立てを希望しているが自費ではできないと落胆。
青木 弘

1 4 9 山口上池

所在地 高松市屋島西町字浜畠 2 2 4 1 - 2

池の規模 堤長 3 4 メートル
堤高 8 . 0 メートル
満水面積 0 . 1 1 ヘクタール
貯水量 4 . 8 千立方メートル
かんがい面積 無し

築造の由来 江戸時代築造

改築の経緯 最近は改築したことがない。

水利慣行等 無し

逸話伝説 無し

備考 田畑無し
山口義高

1 5 0 山口下池

所在地 高松市屋島西町字浜畠 2 2 4 1 - 3

池の規模 堤長 2 0 メートル
堤高 7 . 5 メートル
満水面積 0 . 1 1 ヘクタール
貯水量 4 . 5 千立方メートル
かんがい面積 無し

築造の由来 江戸時代築造

改築の経緯 最近は改築したことがない。

水利慣行等 無し

逸話伝説 無し

備考 田畑無し
山口義高

1 5 1 奥池

所在地	高松市屋島西町字浜畠 8 9 6 - 1 の地先	
池の規模	堤長	7 2 メートル
	堤高	2 . 5 メートル
	満水面積	0 . 1 4 ヘクタール
	貯水量	2 . 0 千立方メートル
	かんがい面積	無し
築造の由来	江戸時代築造	
改築の経緯	平成四年度単独市費補助土地改良事業にて内法面を改修。	
水利慣行等	仲池と道池の補助池として利用していた。	
逸話伝説	無し	
	谷口辰男	

1 5 2 新池

所在地	高松市屋島西町字浜畠 2 2 5 7 - 1 の地先	
池の規模	堤長	8 0 メートル
	堤高	6 . 2 メートル
	満水面積	0 . 2 6 ヘクタール
	貯水量	8 . 8 千立方メートル
	かんがい面積	0 . 9 ヘクタール
築造の由来	江戸時代築造	
改築の経緯	平成三年度単独市費補助土地改良事業にて内法面を改修。	
	平成八年度単独県費補助土地改良事業にて外法面を改修。	
水利慣行等	不明	
逸話伝説	無し	
	谷口辰男	

1 5 4 宮池

備考	馬場池のこと。
	谷口辰男



0 0 1
宮ノ窪上池



0 0 2
宮ノ窪下池



0 0 4
松本一号池



0 0 5
松本二号池



0 0 6
高橋池



0 0 7
大浦上池



0 0 8
大浦下池



0 0 9
高橋池



0 1 5
藤重池



0 2 0
藤岡堀池



0 2 1
藤茂池



0 2 2
ネコ池



0 2 4
谷池



0 2 5
会堂北池



0 2 6
藤岡池



0 2 7
カラ池



0 2 8
ネコ下池



0 2 9
ネコ池



0 3 0
ナカマ池



0 3 1
富前池



0 3 3
松本池



0 3 5
藤岡池



0 3 6
恒一池



0 3 7
太次郎池



0 3 9
伊三郎池



0 4 0
大高池



0 4 1
大高池



0 4 2
古池



0 4 3
唯英池



0 4 4
キソベ池



0 4 5
平常池



0 4 9
コンピラ北池



0 5 2
新池上池



0 5 3
新池中池



0 5 4
新池



0 5 6
藤岡池



0 5 9
綿打池



0 6 1
継信小池



0 6 2
継信池



0 7 0
ワント池



072
オカメ池



073
綿打下池



074
綿打上池



075
マキツカ池



077
クソ池



078
キムラ池
(石池下池)



079
タニヤ池



080
石池
(石池上池)



081
ツムラ池



082
金子池



083
壇ノ浦池



084
浜岡池



085
モロジ池



086
池田池



087
長池



0 8 8
開池



0 8 9
新池



0 9 0
上鴨池



0 9 2
明神池



0 9 3
下鴨池



0 9 4
宅見池



0 9 4 - 1
宅見池



0 9 5
木村上池



0 9 6
木村下池



0 9 7
法泉池



0 9 8
平木池



0 9 9
籠池



1 0 2
聖代池



1 0 3
吉木池



1 0 4
大西池



1 0 5
岡池



1 0 7
長池



1 0 9
屋島池
(通称 藤田池)



1 1 0
潟元池



1 1 1
山田池
(通称 藤本池)



1 1 2
藤本上池



1 1 4
木村池
(通称 アシメ池)



1 1 6
円応池



1 1 7
下池



1 1 8
上池



1 1 9
明石池



1 2 0
松岡池



番外
友市池



1 2 1
瑠璃宝池
(通称 血ノ池)



1 2 1 - 1
瑠璃宝池
(通称 血ノ池)



1 2 2
山畑池



1 2 3
馬場池



1 2 4
谷原池



1 2 5
道池
(通称 新池)



1 2 5-1
道池
(通称 新池)



1 2 6
下河池



1 2 7
川六池



1 2 8
佐々木池



1 3 0
太田池



1 3 1
吉川池



1 3 5
協和池



1 3 6
植田池



1 3 7
加藤池



1 3 8
田中上池



1 3 9
田中下池



1 4 0
小判屋池



1 4 1
小泉池



1 4 2
小判屋池



1 4 6
小泉池
(通称 仲間池)



1 4 7
久保松池



1 4 8
青木池



1 4 9
山口上池



1 5 0
山口下池



1 5 1
奥池



1 5 2
新池



1 2 5
道池（写真の右側）

1 5 3
仲池（写真の左側）



1 5 3
仲池
（通称 長池）



1 5 3
仲池
（通称 長池）



1 5 3
仲池
（通称 長池）